

令和3年度第1回千葉県図書館協議会 次第

日 時 令和3年7月14日（水）
午後2時から
場 所 千葉県文化会館
聖賢堂第3会議室

1 開 会

2 議長あいさつ

3 議 事

- (1) 令和2年度事業報告及び令和3年度事業計画について（報告）
- (2) 千葉県立図書館行動計画（平成30～令和2年度）の実施状況及び評価について（報告）
- (3) 千葉県立図書館行動計画（令和3～5年度）（案）について（協議）
- (4) その他

4 その他

5 閉 会

千葉県図書館協議会委員名簿(第35期)

令和3年4月1日現在

任期 令和元年7月22日～令和3年7月21日

番号	委員の区分	氏名	役職等
1	学校教育関係者	おおくぼ はじめ 大久保 一	八街市立八街南中学校教頭 (千葉県教育研究会学校図書館教育部会会長)
2	学校教育関係者	つかだ こういちろう 塚田 高一郎	千葉県立八千代西高等学校教諭 (千葉県高等学校教育研究会学校図書館部会会長)
3	学校教育関係者	こいずみ たかし 小泉 卓史	前学校法人市川学園 市川中学校・市川高等学校 第三教育部長・第三教育センター長
4	社会教育関係者	さかぐち そのこ 坂口 園子	柏市地域づくり推進部藤心近隣センター所長 (前千葉県公民館連絡協議会副会長)
5	社会教育関係者	おの ひみこ 小野 日実子	四街道市立図書館長 (千葉県公共図書館協会監査役)
6	家庭教育関係者	やぐち もりあき 矢口 盛明	元千葉県PTA連絡協議会本部役員
7	家庭教育関係者	なか けいこ 名嘉 圭子	千葉県特別支援学校PTA連合会会長
8	学識経験者	さとう もとこ 佐藤 宗子	千葉大学名誉教授
9	学識経験者	たけうち ひるや 竹内比呂也	千葉大学副学長・附属図書館長 (千葉大学人文科学研究院教授)
10	学識経験者	たかいし たかし 高石 卓	千葉信用金庫理事 (元千葉県立中央図書館館長)

令和3年度 県立図書館幹部職員一覧

中 央	西 部	東 部
館 長 ヨシノ キョウ 吉野 清	館 長 アサキ ヒトシ 安宅仁志	館 長 オオイシ ユカ 大石 豊
副館長 ナラ シンイチロウ 奈良伸一郎	副館長 アカスマ テサト 赤沼 知里	副館長 オシザワ ヒロコ 押澤 裕子
庶務課長 ウジイ マナ 氏家 麻奈	庶務課長 マツイ シンイチ 松井 真一	庶務課長 サイウ リエ 齋藤 利恵
読書推進課長 オオモリ サヤマ 大森 明香	読書推進課長 ワカモト トモコ 若本 朋子	読書推進課長 スギヤマ ユウコ 杉山 裕子
資料管理課長 オシダリ テツヤ 忍 足 哲也	資料管理課長 ヤマデラ エイコ 山寺 映子	資料管理課長 ナカノ アキコ 中野 晶子
ちば情報課長 ヤマダ ヒロコ 山田 浩子		
図書館連携課長 ヤマベ マナブ 山 邊 学	図書館連携課長 ヒラツカ アキコ 平塚 明子	図書館連携課長 イジマ ジュンコ 飯島 純子

○千葉県図書館協議会関係条例・規則

教育機関設置条例（抜粋）（昭和三十二年四月一日条例第四号）

（図書館協議会）

第五条 図書館に図書館協議会を置く。

2 図書館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命する。

3 前項の委員の定数は、十人以内とする。

4 第二項の委員の任期は二年とし、欠員の生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 前三項に定めるもののほか、図書館協議会の組織及び運営に関して必要な事項は、千葉県教育委員会が定める。

図書館協議会会議運営規則（昭和三十二年八月三十一日教育委員会規則第十号）

第一条 図書館協議会会議（以下「会議」という。）には、委員の互選による議長及び副議長一人を置くものとする。

第二条 議長及び副議長の任期は二年とする。

第三条 議長は会議を主宰する。

第四条 副議長は、議長を助け、議長に事故あるときは、その職務を行う。

第五条 会議は、議長が招集する。

第六条 会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。

2 会議の議決は、出席者の過半数で決める。

第七条 会議開催の場所及び日時は、会議に付議すべき事件とともに、議長が、あらかじめこれを通知しなければならない。

第八条 招集は、開会の日前、七日までに、これを通知しなければならない。ただし、急を要する場合はこの限りでない。

第九条 会議は、定例会及び臨時会とする。

第十条 定例会は、年三回以上これを招集しなければならない。

第十一条 臨時会は、必要がある場合においてその事件に限りこれを招集する。

第十二条 会議招集の通知後に急を要する事件があるときは、第七条の規定にかかわらず、直ちに、これを会議に付議することができる。

第十三条 関係職員は、会議に出席して意見をのべることができる。

第十四条 この規定に定めるもののほか、会議に必要な事項は別にこれを定める。

第十五条 会議に関する庶務は千葉県立中央図書館で行う。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（昭和六十二年四月一日教育委員会規則第二号）

この規則は、公布の日から施行する。

令和3年度事業計画

【重点事業】

※ 〈 〉 以外は県立3館で実施

1 県内図書館の中核としての役割

- ・資料搬送ネットワークの維持・改善、図書館運営相談 (課題の整理・検討)
- ・県立図書館職員の資質向上 (専門研修の受講)
- ・図書館職員研修センターとしての機能強化 (研修内容の充実)

2 子どもの読書活動の推進

- ・子どもの読書活動推進センター機能の充実
(千葉県子どもの読書活動推進計画(第四次)に基づく読書活動の推進)
- ・家庭における読書活動の推進 (子育て支援情報サービスの充実〈中央〉)
(読み聞かせボランティア入門講座の実施〈中央〉)
- ・学校図書館への支援 (学校向け資料やホームページの充実〈中央〉)
(特別支援学校への訪問読書支援の実施)

3 課題解決支援図書館機能の充実

- ・課題解決に必要な資料情報の蓄積及び支援サービスの実施・普及
(パスファインダーや時事問題等に関する資料(情報)案内の作成)
- ・データベースの利用促進 (データベース活用講座の実施)
- ・図書館への来館が困難な利用者に対する情報提供
(郵送による利用登録の実施)【新規】
- ・県庁各課等への情報提供サービスの推進 (利用促進のための広報強化〈中央〉)

4 千葉県に関する資料や情報の蓄積、継承

- ・千葉県関係資料の計画的な収集整備、保存
地域行政資料(インターネット情報を含む)の収集・保存の推進
県内における大規模災害の関連資料及び防災関連資料・情報の収集
- ・千葉県関係の情報発信の推進
(千葉県歴史関係雑誌記事索引入力の実施〈中央・東部〉)
(千葉日報記事索引入力の実施〈西部〉)
(千葉県関係資料のデジタル化〈中央〉)
(県民向け菜の花ライブラリー活用講座の実施)

5 知の創造と循環を生み出す公共の場

- ・博物館、文書館等との連携 (講座、展示、資料貸出し、文献リストの作成等の実施)
- ・オリンピック・パラリンピック開催に合わせた情報の提供 (展示の企画等)
- ・高齢者サービスの推進 (講座等の実施〈東部〉)
- ・障害者サービスの実施及び市町村立図書館等への普及
(市町村や学校の図書館等に係る会議・研修会での広報)
(遠隔対面朗読サービスの試行〈西部〉)【新規】
- ・図書館の広報戦略の推進 (ソーシャルネットワーキングサービスの活用等)

6 県立図書館の事業点検及び再編準備

- ・1館集約に向けた課題の整理、検討

【業務内容】

第1 県内図書館の中核としての役割

1 市町村の読書環境充実のための支援

(1) 資料搬送ネットワークの維持・改善（図書館協力業務）

- ア 資料の図書館間貸出し
市町村立図書館等の求めに応じて、資料の図書館間貸出しを行う。
- イ 図書館連絡車・協力車巡回
業者委託により県立3館の間で連絡車を巡回させ、県内の全ての市町村立図書館等に対し、週1回定期的に協力車を巡回し、県立図書館及び市町村立図書館等の相互貸借資料を搬送する。併せて、1館集約を見据えた資料搬送ネットワークの構築について検討を重ねる。
- ウ 協力レファレンス
市町村立図書館等からの所蔵調査・資料調査・事項調査等の調査・相談等に対し、データベースや図書館資料を使って支援を行う。
- エ 高等学校・特別支援学校・大学及び類縁機関等との連携
県内の高等学校・特別支援学校・大学及び類縁機関等と連携し、資料提供や協力レファレンス、研修等を行う。
資料搬送方法：協力車〈西部・東部〉、宅配便〈中央・西部（協力車未巡回校）〉
- オ 図書館未設置市町村支援
図書館未設置市町村の公民館図書室など読書施設に対し、資料の貸出しや協力レファレンス、教科書単元・テーマ別資料リスト等活用の紹介〈中央〉、運営相談等の支援を行う。
- カ 担当者会議の開催
市町村立図書館等の相互協力担当職員を対象に、相互協力の円滑な推進を図るための会議を開催する。

【資料搬送コース等】

《県立間連絡車巡回コース》

曜日	図書館名
火・木曜日	県立中央 → 県立東部 → 県立西部 → 県立中央 → 県立東部

《中央図書館協力車巡回コース》

コース名	Aコース	Bコース	Cコース	来館
曜日	水曜日	木曜日	金曜日	火曜日 金曜日
巡回施設	館山市図書館 南房総市図書館 鴨川市立図書館 勝浦市立図書館 御宿町公民館 いすみ市大原公民館 大多喜町立大多喜図書館天賞文庫 睦沢町中央公民館 一宮町まちの図書室	鋸南町立中央公民館 富津市移動図書館 君津市立中央図書館 木更津市立図書館 袖ヶ浦市立長浦めのうえ図書館 市原市立中央図書館 長柄町公民館 長南町中央公民館 長生村文化会館 白子町青少年センター 茂原市立図書館	ふれあいプラザさかえ 成田市立図書館 富里市立図書館 八街市立図書館 酒々井町立図書館 佐倉市立佐倉南図書館 千葉県教育振興財団 四街道市立図書館 八千代市立中央図書館 習志野市立中央図書館 県立保健医療大学 千葉大学附属図書館本館 〃 亥鼻分館	千葉市

〈宅配・連携校〉

県立船橋東高校	県立流山北高校	東葉高校	県立松戸特別支援学校
〃 船橋二和高校	〃 野田中央高校	東京学館船橋高校	〃 湖北特別支援学校
〃 鎌ヶ谷西高校	〃 清水高校	我孫子二階堂高校	〃 矢切特別支援学校
〃 船橋豊富高校	〃 関宿高校	東海大学付属浦安高校	〃 つくし特別支援学校
〃 市川昂高校	〃 印旛明誠高校	日出国園中学校・高校	〃 印旛特別支援学校
〃 松戸南高校	船橋市立船橋高校	県立船橋特別支援学校	〃 船橋夏見特別支援学校
〃 船橋高校	松戸市立松戸高校	〃 市川特別支援学校	〃 柏特別支援学校
〃 柏の葉高校	市川高校	〃 特別支援教市川大野高等学園	

〈東部図書館協力車巡回コース〉

コース名	Aコース	Bコース	Cコース
曜日	水曜日	木曜日	金曜日
巡回施設	県立八日市場特別支援学校 匝瑳市立八日市場図書館 県立匝瑳高校 横芝光町立図書館 県立松尾高校 芝山町中央公民館 多古町立図書館 県立多古高校 神崎ふれあいプラザ 県立香取特別支援学校 〃 佐原白楊高校 香取市立佐原中央図書館 県立佐原高校	県立銚子特別支援学校 銚子市立銚子高校 県立銚子商業高校 〃 銚子高校 千葉科学大学 銚子市公正図書館 東庄町図書館 県立小見川高校 〃 東総工業高校 旭市図書館 県立旭農業高校	九十九里町中央公民館 県立九十九里高校 〃 大網白里特別支援学校 大網白里市図書室 東金市立東金図書館 県立東金高校 〃 東金商業高校 〃 東金特別支援学校 城西国際大学 県立成東高校 山武市さんぶの森図書館 県立飯高特別支援学校

(2) 図書館運営相談

図書館の管理・運営やサービスに関する質問を市町村立図書館等から受け付けるほか、定期的に施設訪問し、図書館運営相談等に応じる。また、県内で大規模災害等が生じた際には市町村立図書館等の被害・休館状況等について情報共有を図る。

(3) その他

ア 新聞・雑誌総合目録の整備

市町村立図書館等や文書館行政資料室、県立保健医療大学図書館、さわやかちば県民プラザで所蔵する新聞や雑誌の総合目録を毎年更新してホームページ上で公開する。

イ 読書活動支援

県内の読書活動を推進するため、市町村立図書館等と連携し、読書グループ関係団体への支援協力を行う。また、読書会用テキストとして、同一タイトル10冊をセットにした十冊文庫の整備を進める。

ウ 資料の巡回展示〈東部〉

市町村立図書館等及び学校図書館と連携し、東部図書館で実施した資料展示の巡回展示を行う。

2 図書館職員の研修センター

(1) 職員の資質向上

県立図書館職員の資質向上を目的に館内研修を計画的に実施するとともに、新たな専門研修の受講を含め外部研修会等への職員派遣を積極的に行う。

(2) 研修業務

市町村立図書館等職員に必要とされる専門的な知識・技術についての各種研修会を開催し、全体的な図書館サービスの維持・向上を目指す。開催方法については、引き続き遠隔開催などの手法を取り入れていく。また、研修時のアンケート結果等を分析し、研修プログラム充実に必要な課題を整理・検討する。

【中央図書館】

*開催日等は予定

事業名	開催日	会場	参加予定数
公共図書館新任職員研修会	5月12日(水)	千葉県文化会館	50人
公共図書館中堅職員研修会	10月6日(水)	千葉県文化会館	40人
図書館長研究協議会	未定	千葉県文化会館	40人
児童サービス基礎研修会 第1回	6月16日(水)	オンラインによる遠隔開催	40人
第2回	7月1日(木)	〃	40人
第3回	7月14日(水)	〃	40人
第4回	9月10日(金)午前	〃	40人
第5回	〃 午後	〃	60人
地域行政資料研修会 第1回	10月15日(金)	中央図書館閲覧室	20人
第2回	未定	未定	20人
レファレンス研修会 (レファレンスサービス基礎研修)	6月18日(金) 7月6日(火) 7月15日(木)	中央図書館閲覧室 中央図書館会議室 中央図書館会議室	20人 12人 12人
レファレンス研修会 (レファレンスサービス専門研修)	未定	未定	30人
課題解決支援サービス研修会	未定	千葉県文化会館	30人

【西部図書館】

*開催日等は予定

事業名	開催日	会場	参加予定数
公共図書館新任職員研修会	5月28日(金)	西部図書館研修室 (オンライン同時配信)	18人
障害者サービス研修会 第1回	6月24日(木)	〃	15人
第2回	6月30日(水)	〃	15人
課題解決支援サービス研修会	11月	〃	15人

【東部図書館】

*開催日等は予定

事業名	開催日	会場	参加予定数
公共図書館新任職員研修会	5月19日(水)	東部図書館研修室	15人
課題解決支援サービス研修会	11月(未定)	東部図書館研修室	30人
千葉経済大学短期大学部と千葉県立東部図書館との連携研修会	未定	東部図書館管内の読書施設	20人
学校図書館運営研修会	7月30日(金)	東部図書館研修室	15人

※公共図書館新任職員研修会(西部図書館)については、オンライン遠隔研修併用で実施。また、他の研修会についても状況により遠隔研修による実施とする場合がある。

第2 子どもの読書活動の推進

1 子どもの読書活動の推進拠点

(1) 子どもの読書活動推進センター機能の充実

千葉県子どもの読書活動推進計画（第四次）に基づき、教育委員会、図書館、関係機関・団体、関係者等の連携拠点（センター）として子どもの読書活動の推進を図る。子どもの読書推進に関する施策・サービス等の調査・研究、普及・啓発、資料の収集と整備、担当者の研修及びネットワークの構築（連絡・調整、情報の共有、人や組織の連携等）を行い、センター機能の充実に努める。

(2) 来館者サービス

資料の貸出し、児童書研究のレファレンスのほか、定例おはなし会や親子で楽しむえほんの会、冬のおはなし会を開催する。また、子育て支援情報サービスの充実を図る。〈中央〉

(3) 市町村立図書館等への支援

市町村立図書館等への資料の貸出しや調査相談、ブックリストの提供、運営相談等を行う。「児童サービス基礎研修会」を開催し、市町村立図書館等の児童サービス担当職員の養成に努める。〈中央〉

(4) 読み聞かせボランティアの養成

「読み聞かせボランティア入門講座」を開催するとともに、市町村立図書館等や学校図書館が実施する子どもの本の読み聞かせボランティアを養成する講座等に講師として職員を派遣する。〈中央〉

(5) 出張おはなし会

博物館等関係機関で開催するイベント等に協力し、職員が出向いて、おはなし会や読み聞かせを行う。〈中央〉

(6) ヤング・アダルトサービスの実施

県内高等学校の図書委員会活動の取材・紹介、県立図書館ホームページ内のヤング・アダルトサービスのページの充実、Twitterによる発信に努める。〈中央〉

(7) 障害者用資料の製作

児童資料の点訳絵本等を製作する。〈中央〉

(8) 広報・啓発業務

- ・子ども読書の日記念展示の開催〈中央・東部〉
- ・生涯学習課主催の「子ども読書の集い」への出展〈中央〉

2 学校図書館への支援

(1) 高等学校・特別支援学校向け貸出用資料の整備

学校用貸出セット資料を整備し、校長会、教員研修会等の場で広報するとともに、資料搬送・宅配未登録校へは説明資料を郵送し、利用の促進を図っていく。

資料搬送方法：協力車〈西部・東部〉、宅配便〈中央・西部（協力車未巡回校）〉

(2) 資料の貸出し・運営相談等

学校図書館への資料の貸出しや調査相談、運営相談を行う。

生徒向けに高等学校で実施する読み聞かせ講座に講師として職員を派遣する。〈中央〉

高等学校を対象に、随時、希望により訪問運営相談を実施する。〈西部・東部〉

学校図書館運営研修会を開催する。〈東部〉

(3) 特別支援学校への訪問による読書支援

希望する学校に職員が訪問し、おはなし会や運営相談等の読書支援を行う。

(4) ホームページでの学校向け情報発信

「学校の先生方へ」等ホームページにより、県内諸学校に向けた情報発信の充実を図る。

第3 課題解決支援図書館機能の充実

1 調査研究に役立つ資料の収集・蓄積と情報の提供

(1) 資料の収集・整理・保管業務

ア 収集

「千葉県立図書館資料収集方針」等に基づき、県民の調査研究活動の支援及び市町村立図書館等への協力・支援に資する資料を収集するものとし、特に3館が一体となって県立図書館全体の蔵書構築ができるよう、以下の点に留意し収集に努める。

中央図書館では、総記、社会科学、言語等の資料を重点的に収集する。また、千葉県関係資料の網羅的・系統的な収集に努めるほか、官公庁をはじめ、関係機関や県内の諸団体の刊行物、個人の自費出版物等の収集・整備に努める。さらに、県内における子どもの読書活動推進のセンター館として、児童資料及び児童書研究資料の充実を図るほか、学校支援用の図書を整備する。西部図書館では、自然科学・技術分野に加えて哲学、芸術等の資料を重点的に収集する。東部図書館では、文学・歴史分野の資料を重点的に収集する。

イ 整理

資料の発注から廃棄までの整理業務は電算システムを活用して行い、装備は、バーコードラベル、背ラベル、不正持出し防止用の磁気テープ、フィルムコーティング等を施し、資料の保全を図る。

ウ 資料整備計画

区 分	中央図書館	西部図書館	東部図書館	合 計
購入図書資料	4,874 冊	3,800 冊	2,585 冊	11,259 冊
寄贈図書資料	3,000 冊	600 冊	400 冊	4,000 冊
逐次刊行物(購入)	152 タイトル	279 タイトル	195 タイトル	626 タイトル

エ 保管

収集資料を継続的・効率的に維持保存・利用するために、蔵書点検(2月1日～10日)を行う。また、書庫の狭溢化対策として、1館集約を見据え重複資料等の除籍を行う。

(2) 電算業務

ア 業務系システム

平成29年11月より2期目に入った「千葉県立図書館情報システム」を維持管理し、次期電算システム導入に向けた機能充実・改善の検討を進める。

イ インターネット系システム

「千葉県立図書館ホームページ」については、更に利用しやすく利便性が高まるよう整備する。

2 調査研究や政策形成の支援

(1) 調査相談業務（レファレンスサービス）

ア 調査回答

図書及び新聞・雑誌、マイクロ資料等の所蔵資料、インターネット情報源、データベース等を活用し、口頭や電話、メール、文書等による個人や市町村立図書館等からの調査相談に対し的確に回答する。

イ 研修会の開催

市町村立図書館等職員を対象に、課題解決支援サービス研修会やレファレンス研修会を開催する。

ウ パスファインダー（調べ案内）、時事問題等に関する資料（情報）案内の作成

県民ニーズを把握し、県民が関心を持つテーマに関する調べ方を紹介するパスファインダー（調べ案内）並びに時事問題や地域の課題等に関する資料（情報）案内等を作成、提供する。

エ レファレンス事例の公開

調査回答事例を国立国会図書館レファレンス協同データベースに提供し、県民がホームページで閲覧できるようにする。

オ 国立国会図書館の提供する「図書館向けデジタル化資料送信サービス」の利用

「図書館向けデジタル化資料送信サービス」が調査研究に活用されるよう県民への広報を行うとともに、資料の提供、複写サービスを行う。

カ データベースの利用促進

データベースの利用を促進するため、積極的に広報を行う。また、利用者向けにデータベース活用講座を開催する。

【データベース】

	データベース名	中央	西部	東部
総合	ジャパンナレッジLib	○	○	○
	国立国会図書館 図書館向けデジタル化資料送信サービス	○	○	○
	国立国会図書館 歴史的音源（配信提供館）	○	○	○
	サピエ（視覚障害者情報総合ネットワーク）	○	○	○
	ポプラディアネット	○	○	○
新聞・雑誌の 記事・論文	日経テレコン21	○	○	—
	朝日「聞蔵Ⅱビジュアル」	○	○	○
	毎索	○	○	○
	ヨミダス歴史館	○	—	—
	中日新聞・東京新聞記事データベース	○	—	—
	産経新聞データベース	○	○	○
	ELNET ELDB	○	○	○
	Web OYA-bunko	○	○	○
	ざっさくプラス	○	○	○
JDream III	○	○	○	
社会科学	D1-Law.com（現行法規・判例体系・法律判例文献情報）	○	○	○
	Nexis	—	○	—
	官報情報検索サービス	○	○	○
	市場情報評価ナビ MieNa	○	—	—
	TSR企業情報ファイルCD・eyes50	○	—	—
人文科学	Whoplus	○	○	○
	日本文学Web図書館 和歌ライブラリー	○	○	○
	日本古典文学大系本文データベース	○	○	○
	レファコレ<日外レファレンスコレクション> (世界文学)	○	○	○

	レファコレ<日外レファレンスコレクション> (児童文学・ヤングアダルト)	○	○	○
自然科学・ 技術・産業	医中誌Web	—	○	—
	最新看護索引Web	—	○	—
	ルーラル電子図書館	—	—	○

「ジャパンナレッジLib」は『国史大辞典』『日本歴史地名大系』『世界大百科事典』『新版角川日本地名大辞典』を含む

(2) 閲覧業務

ア 資料の館内利用・貸出し

図書及び新聞・雑誌、マイクロ資料等所蔵資料や、県内外の他の公共図書館及び国立国会図書館、大学図書館等からの相互貸借により、資料の提供や貸出し、複写サービスを行う。

イ 図書館への来館が困難な利用者に対する情報提供

自宅への図書の直接貸出を希望する県民（資料貸出券の発行を受けている方）に対して、図書館に来館せずに郵送（送料自己負担）による図書（一部の資料を除く）の貸出し、返却サービスを行う。また、来館しにくい県民や災害等により一時的に図書館を利用しにくくなる県民への対応として、郵送による資料貸出券交付申込みを実施する。さらに、災害等の状況に応じて、個人貸出冊数や貸出期間の制限緩和を行う。

ウ 資料の展示

所蔵資料の特長を活かしたテーマを設定し、定期的な資料展示を行う。

(3) 各種講座の開催

各種講座を実施し、県民の学習機会の拡充に努める。

【講座等実施事業一覧】（研修事業は別掲）

*開催日等は予定

事業名	中央	西部	東部
図書館ナビ			毎月第4土曜日
データベース 活用講座	新聞雑誌 記事検索	未定	
	菜の花 ライブラリー	6月19日（土）	未定
文学・歴史講座			11月26日（金）
サイエンス・カフェ		10月30日（土）	
課題 解決 支援	くらしに役立つ 法律・判例情報 講座	11月～1月	
	はつらっライフ 講座		10月
障害者のための資料 デジタル化講座		6月2日（水）	
図書館音訳者 養成講座	11月～12月	9月、10月	12月
読書支援機器 活用講座	8月～9月	11月	
サピエ図書館 活用講座	12月		
定例おはなし会	毎週土曜日		
親子で楽しむえほん の会	毎月第2金曜日		
冬のおはなし会	12月19日（日）		

読み聞かせボランティア入門講座	5月30日（日） 10月		
教職員のための読み聞かせ講座（さわやかちば県民プラザ共催事業）	8月4日（水）		

（４）県庁各課等への情報提供

県民生活の維持向上等に係る施策を企画・立案している県庁各課等へ、業務で必要な資料の貸出しや調べものの支援として情報提供サービスを行う。また、県出先機関への郵送サービスを行うほか、利用促進のための広報に取り組む。

第４ 千葉県に関する資料や情報の蓄積、継承

1 千葉県関係資料の計画的な収集整備、保存

（１）資料の計画的な収集

千葉県関係資料の網羅的・系統的な収集に努めるとともに、文書館などの関係機関と連携し、官公庁など関係部署への寄贈依頼を定期的に行う。また、出版情報を新聞記事等により把握し幅広く収集するとともに、インターネット情報を含む地域行政資料の収集・保存に努める。さらに、オリンピック・パラリンピック関連資料の収集、保存等に取り組む。

（２）チラシ等の作成・配布、研修会の開催と広報

千葉県に関するパスファインダー（調べ案内）、千葉県資料のテーマ別資料リスト、菜の花ライブラリーの使用方法の印刷物を作成・配布する。また県内公共図書館等職員を対象に、地域行政資料に関する知識を深め、日常のレファレンス業務や資料の保存・提供の充実を図るため、研修会を実施する。

（３）県内における大規模災害の関連資料及び防災関連資料・情報の収集

県民の課題解決支援の一環として、東日本大震災や、千葉県における房総半島台風、新型コロナウイルス感染症、鳥インフルエンザ等、県内に甚大な被害をもたらした災害に関する資料や、ハザードマップ等の防災に関連する資料・情報を適宜収集、整理、保存するとともに、資料の提供や図書館ホームページによる情報提供に取り組む。

2 千葉県関係の情報発信の推進

（１）千葉県関係の情報検索ツールの充実

国立国会図書館レファレンス協同データベースへのデータ提供、千葉県関係の新聞・雑誌記事索引、歴史関係雑誌記事索引、千葉県に関する調べ案内（パスファインダー）、千葉県資料のテーマ別資料リスト等の情報検索ツールを作成し、レファレンスサービスの充実に努める。

（２）貴重資料保存のためのデジタル化

和装本・地図・郷土誌など、資料の劣化状況や利用者ニーズ等を踏まえ、デジタル化を進める。

（３）菜の花ライブラリー活用講座の実施

県民が千葉県についての情報を効率的に幅広く入手し、千葉県への理解を深めるために、ホームページで公開している千葉県関係データベース「菜の花ライブラリー」の利用方法を学ぶ機会として菜の花ライブラリー活用講座を実施する。

第5 知の創造と循環を生み出す公共の場

1 博物館、文書館など関係機関との連携

博物館や文書館、さわやかちば県民プラザ等と連携して、展示、講座、資料貸出し、文献リストの作成等を実施する。

関係機関が実施する講座等へ、職員を講師として派遣する。

2 すべての県民が利用しやすく快適な社会教育施設

(1) 高齢者・障害者サービス

年齢や障害のために図書館利用が困難な方が資料の提供を受けられるように、各種サービスや研修会を実施し、市町村立図書館等への普及を図る。また、先進事例を調査・研究し、サービスの推進に当たる。

ア 録音図書の貸出し・製作

希望する録音図書を、所蔵資料だけでなく、全国の点字図書館や公共図書館より借り受けて提供する。また、所蔵していない場合は、自館で製作し貸出しを行う。

イ 対面朗読

図書館音訳者が図書館の蔵書や持込みの資料などを朗読する。

オンラインによる遠隔対面朗読サービスを試行する。〈西部〉

ウ 活字資料のテキストデータ化〈西部〉

利用者へ迅速に情報提供できるよう、希望する活字資料をテキストデータ化してパソコン等で音声化するサービスを行う。併せて、作業に従事する図書館音訳者等向けに「障害者のための資料デジタル化講座」を開催する。また、製作したテキストデータの今後の活用等について検討を進める。

エ 録音図書等のデータ提供

「視覚障害者情報総合ネットワーク（サピエ）」に、所蔵する録音図書等の目録情報を、また、「国立国会図書館視覚障害者等用データ送信サービス」へ、製作した録音図書等のデータを提供し、利用者がインターネットで利用できる環境を整備する。

オ 図書館音訳者の養成

録音図書の製作や対面朗読を行う図書館音訳者を委嘱するとともに、図書館音訳者の技術向上に資するため、図書館音訳者養成講座を開催する。西部図書館では、2年にわたる初級講座を修了した新たな音訳者の活動を支援し、ステップアップのための講座を開催する。また、活動中の音訳者に対しては、さらなる技術向上のための中級講座を開催する。

カ 研修会の開催〈西部〉

市町村立図書館等職員の公共図書館における障害者サービスの向上や、特別支援学校教職員への障害者サービスの啓発を目的に、障害者サービス研修会を開催する。

キ 読書支援機器活用講座の開催〈中央、西部〉

活字による読書の困難な方とその支援者や市町村立図書館職員、特別支援学校教職員等を対象に、拡大読書器や活字を読み上げる機器、デジタル録音図書の再生機器の説明会並びにICTを活用した読書の最新動向の紹介等を実施する。

ク サピエ図書館活用講座の開催〈中央〉

インターネットを活用して、録音図書・点字図書オンラインデータベースを体験する講座を開催する。

※「サピエ」とは、視覚障害者を始め、目で文字を読むことが困難な方々に対して、さまざまな情報を点字、音声データで提供するネットワーク（当該ホームページから引用）

ケ 高齢者サービスの推進〈東部〉

高齢者サービスの課題の把握に努めながら、「はつらっライフ講座」等を開催するとともに、「はつらっライフコーナー」の充実を図る。

(2) 広報・啓発業務

県立図書館の機能・役割を県民に広く周知するために、「要覧」、「千葉文化 千葉県立中央図書館報」、「West Library 千葉県立西部図書館だより」、「知識は旅をする 千葉県立東部図書館だより」、「利用案内」の編集・発行等を行うほか、次の事業を行い、図書館の広報を推進する。

ア 県立図書館ホームページの充実

イ オリンピック・パラリンピックをテーマにした展示を企画し、県立3館及び市町村立図書館等での巡回を進め、情報の提供を行う。

ウ ソーシャルネットワーキングサービスを活用した所蔵資料・事業内容紹介

エ 千葉県資料の県民向け広報の実施〈中央〉

オ 広報紙等による所蔵資料・事業内容紹介

カ 職場体験・インターンシップの受入れ〈東部〉

小・中学生、高校生の職場体験、インターンシップの高校生・大学生を受け入れる。

第6 県立図書館の事業点検及び再編準備

1 行動計画の取組の推進

「千葉県立図書館行動計画」の進捗状況を図書館協議会へ報告し、意見をいただくとともに、ホームページに公表して図書館サービスの向上や改善に努める。

2 利用者アンケートの実施

図書館利用の満足度等利用状況を把握し、図書館運営の参考とするため、秋の読書週間に実施する。

3 県立図書館の再編準備

平成30年度からプロジェクトチームを設置しており、1館集約に向けた物流や研修、資料収集等といった課題の整理及び検討を進めていく。

4 東部図書館における旭市図書館の一部使用

東部図書館の旭市への移譲までの間、当館の一部を旭市図書館として使用することに伴い、開架・閲覧室の図書等の配架を変更するとともに、カウンター、書架表示等を明確にし、各館の利用者サービスを円滑に行えるようにする。

Ⅱ 令和2年度事業報告

【概況】

県立図書館は運営方針に基づき、3館の密接な連携により、市町村立図書館等への援助、県内の中核的調査研究図書館としての情報・資料の提供、図書館未設置市町村の読書施設に対する資料援助や運営相談及び職員研修、高等学校・大学及び類縁機関等との連携など幅広い図書館活動を行った。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3館とも、前年度3月3日（火）から臨時休館し、特設窓口にて予約図書の貸出しを行っていたが、4月11日（土）からは特設窓口でのサービスも休止した。5月26日（火）から、感染拡大防止策を講じながら平日の開館時間を午後5時までに短縮して図書館を再開した。その後、段階的にサービスを拡大し、7月29日（水）からは平日の開館時間を午後7時までとしたが、1月13日（水）から3月18日（木）までは再び平日の開館時間を午後5時までに短縮した。

また、中央図書館においては、排水設備（トイレ）工事のため11月17日（火）から19日（木）まで臨時休館した。

図書館事業概要

項目		館名	中央図書館	西部図書館	東部図書館	合計
資料整備	資料総数	受入冊数	7,627冊	4,147冊	2,930冊	14,704冊
		(内購入冊数)	(4,663冊)	(3,719冊)	(2,452冊)	(10,834冊)
		購入費	21,500千円	19,315千円	11,185千円	52,000千円
	蔵書数	869,056冊	285,780冊	293,713冊	1,448,549冊	
	新聞・雑誌・法規集	77紙・3,721誌・3種	38紙・546誌・0種	22紙・256誌・0種	137紙・4,523誌・3種	
サービス業務	利用状況	入館者数	32,494人	59,304人	60,997人	152,795人
		登録者数	13,930人	15,314人	8,336人	37,580人
		個人貸出	44,722冊	45,482冊	25,467冊	115,671冊
	資料複製サービス	90,410枚	30,896枚	8,397枚	129,703枚	
	参考調査 照会・質問	6,211件	3,897件	5,098件	15,206件	
協賛	県立図書館蔵書貸出冊数	37,306冊	16,592冊	27,889冊	81,787冊	
	市町村立図書館等蔵書の相互貸借冊数	43,222冊	29,160冊	13,097冊	85,479冊	
管内人口(令和3年4月1日)						6,278,097人

《備考》 蔵書数にはマイクロ資料、視聴覚資料を含む。

市町村立図書館等蔵書の相互貸借冊数は半期ごとに集計。

【業務内容】

第1 県内図書館の中核としての役割

1 市町村の読書環境充実のための支援

(1) 資料搬送ネットワークの維持・改善（図書館協力業務）

「読書県ちば」を目指し、市町村立図書館及び図書館未設置市町村公民館図書室等に対して、相互貸借資料の搬送や運営相談、協力レファレンス等の援助を行った。また、高等学校・大学及び類縁機関等と連携し、読書活動の充実に努めた。

ア 資料の図書館間貸出し

市町村立図書館及び図書館未設置市町村公民館図書室等の求めに応じて、資料の図書館間貸出しを行った。

イ 図書館連絡車・協力車巡回

業者委託により県立図書館3館の間で連絡車を巡回させ、県内の全ての市町村立図書館等に対して週1回定期的に協力車を巡回し、県立図書館及び市町村立図書館等の相互貸借資料を搬送した。

ウ 協力レファレンス

市町村立図書館等からの所蔵調査・資料調査・事項調査等の調査・相談等に対し、データベースや図書館資料を使って支援を行った。

エ 図書館未設置市町村支援

図書館未設置市町村の公民館図書室など読書施設に対し、資料の貸出しや協力レファレンス、教科書単元・テーマ別資料リスト・図書見本の紹介〈中央〉、運営相談等の支援を行った。訪問時に教科書単元・テーマ別資料リストの他に、小・中学校教科指導で使える資料リスト（「千葉県の民話」「千葉県にゆかりのある人物」）を持参し、自治体の小・中学校等への周知を依頼するなど広報活動をしたこともあり、休校措置のあったコロナ禍においても小・中学校からは683冊の依頼があった。

オ 担当者会議の開催

市町村立図書館等の相互協力担当職員を対象に、相互協力業務の確認や情報交換を行い、相互協力の円滑な推進を図るための会議を開催した。

- ・中央図書館（市町村立図書館相互協力担当者会議 10月16日（金）30人出席）
- ・西部図書館（管内市立図書館相互協力担当者会議 10月8日（木）14人出席）
- ・東部図書館（市町立図書館等相互協力担当者会議 10月15日（木）18人出席）

カ その他

県立図書館ホームページの「図書館員のページ」に、研修の内容や資料をその都度掲載し、不参加であっても研修内容等を確認できるようにした。

（2）図書館運営相談

全市町村を訪問し、各図書館の課題等について運営相談を行った。図書館の管理・運営やサービスに関する質問を市町村立図書館等から受け付けるとともに、定期的に施設訪問し、図書館運営相談等に応じた。

- ・中央図書館（電話やメールでの相談：70回、奉仕対象市町村への訪問相談：年1回、希望のあった館について2回目の運営相談を実施した。）
- ・西部図書館（11市の中心館に対し各1回訪問、運営相談を実施した。）
- ・東部図書館（13市町の図書館及び公民館図書室等16施設に対し、延べ32回の運営相談を実施した。）

（3）その他

ア 新聞・雑誌総合目録の整備

千葉県公共図書館協会加盟の市町村立図書館等や、文書館行政資料室、県立保健医療大学図書館、さわやかちば県民プラザで所蔵する新聞や雑誌の総合目録を更新してホームページ上で公開した。

イ 県内図書館の災害等による休館・サービス状況の公開

新型コロナウイルス感染症による市町村立図書館等の休館・サービス状況について、調査し、ホームページで公開した。

ウ 読書活動支援

県内の読書活動を推進するため、市町村立図書館等と連携し、読書グループ関係団体への支援協力を行った。また、千葉県読書グループ連絡会に協力して、千葉県読書グループ研修会の開催を支援した。さらに、読書会用テキストとして、同一タイトル10冊をセットにした十冊文庫を整備した（総タイトル数701）。

エ 資料の巡回展示〈東部〉

東部図書館で実施した資料展示の資料を中心に、希望するテーマの資料を一括して市町村立図書館、公民館図書室、学校図書館等に貸出し資料展示をしてもらう巡回展示を、6施設に13回実施した。

2 図書館職員の研修センター

(1) 職員の資質向上

県立図書館職員の資質向上を目的に館内研修を計画的に実施するとともに、国立教育政策研究所主催の図書館司書専門講座を始めとした外部研修会等への職員派遣を積極的に行った。

(2) 研修業務

市町村立図書館職員等の資質向上を図るため各種の研修会を実施し、市町村立図書館等への援助機能の充実に努めた(延べ 23回開催、490人参加)。各研修時のアンケート結果を分析し、課題を集約した。また、運営支援の一環として、全ての県内図書館等読書施設の職員が、図書館サービス向上のための研修を受けられるよう、千葉県公共図書館協会と連携した研修プログラムの開発に積極的に取り組んでいる。

令和2年度の各研修は感染拡大防止策を講じた上で開催し、一部研修ではオンライン等による遠隔開催や分散開催、定員縮小による開催とした。

【中央図書館】

事業名	実施日等	実施状況	参加人数
公共図書館新任職員研修会	7月15日(水)	「公共図書館の役割、利用サービス、障害者サービス、レファレンスサービス、児童サービス及び相互協力業務等」 講師 当館職員 会場 県文化会館	44人
公共図書館中堅職員研修会	10月7日(水)	「読書バリアフリー法の概要と運用」 講師 筑波大学附属視覚特別支援学校 教諭 宇野和博氏 会場 県文化会館	34人
図書館長研究協議会	11月5日(木)	講演「図書館のための災害復興法学入門～被災したあなたを助けるお金とくらしの話～」 講師 弁護士・博士(法学) 岡本正氏 報告「千葉県子どもの読書活動推進計画(第四次)」 報告者 生涯学習課職員 会場 県文化会館	36人
児童サービス基礎研修会 全5回	6月18日(木)	第1回 「児童奉仕概論」 講師 佐倉市立佐倉図書館 小廣早苗氏 会場 県文化会館	23人
	7月3日(金)	第2回 「絵本・物語の選書について」 講師 船橋市西図書館 伊藤恵子氏 会場 県文化会館	24人
	7月8日(水)	第3回 「おはなし会の運営について」 講師 当館職員 「ノンフィクションの選書について」 講師 山武市成東図書館 豊山希巳江氏 会場 県文化会館	24人
	9月10日(木) 午前	第4回 「レファレンスサービスについて」 講師 当館職員 会場 県文化会館	25人
	9月10日(木) 午後	第5回 「子どもと本との豊かな出会いのために私たちにできること」 講師 児童図書館研究会東京支部 ・元港区立図書館司書 手島一恵氏 会場 県文化会館	36人

事業名	実施日等	実施状況	参加人数
地域行政資料研修会	10月16日(金)	第1回 「地域行政資料の探し方入門」 「菜の花ライブラリーの解説」 「地域行政資料の探し方 ひとり一問一答」 講師 当館職員	19人
	12月16日(水)	第2回 講義 「千葉氏に関する基礎講座 『千葉氏入門Q&A』より」 講師 千葉市立郷土博物館 総括主任研究員 外山信司氏 見学 千葉市立郷土博物館 千葉市立郷土博物館 主査 錦織和彦氏 会場 県立中央図書館、千葉市立郷土博物館	12人
レファレンス研修会 (レファレンスサービス基礎研修)	6月19日(金) 6月23日(火) 7月1日(水) 7月9日(木)	「レファレンスサービス実践の基礎」 「インターネットを活用した調べ方」 「レファレンス演習/参考図書及びインターネット情報源解題」 講師 当館職員 ※分散開催：4日とも同内容で実施 (1日10名)	40人
レファレンス研修会 (レファレンスサービス専門研修)	11月18日(水)	講義「図書館での新たなビジネス支援と情報収集」 講師 株式会社日本能率協会総合研究所 MDB事業本部 菊池健司氏 講義・演習「市場情報評価ナビMieNaの活用法」 講師 株式会社日本統計センター 青山武夫氏 ※会場・オンラインによる遠隔で同時開催	33人
課題解決支援 サービス研修会	11月18日(水)	(レファレンスサービス研修会(レファレンスサービス専門研修)と合同で実施)	—

【西部図書館】

事業名	実施日等	実施状況	参加人数
公共図書館新任職員研修会	7月22日(水)	「公共図書館の役割、利用サービス、レファレンスサービス、児童サービス及び相互協力業務等」講師 当館職員	15人
障害者サービス研修会 全2回	9月9日(水)	第1回 障害者サービスを始めるための基礎の基礎 講師 当館職員 ア 講義「公共図書館の障害者サービスの理念・各サービスの紹介と具体的実施方法」 イ 演習「障害者サービス用資料について・サピエ図書館体験」 ウ 基本的な手話の体験・質疑応答・情報交換・館内自由見学 ※オンライン同時開催	20人
	12月22日(火)	第2回 ア 講義：知的障害のある人たちと「わかりやすい情報提供」 講師：淑徳大学短期大学部こども学科 准教授 打浪文子氏	24人

		イ 情報交換会・質疑応答 ※オンライン同時開催	
課題解決支援サービス 研修会	7月10日(金)	第1回 講演：国立国会図書館が提供するレファレンスに役に立つデータベースと作成した書誌データの利用法 講師：国立国会図書館利用者サービス部 サービス企画課主査兼レファレンス係長 豊田さおり氏	15人
	2月17日(水)	第2回 講演：課題解決支援サービスの企画から運営まで～サービス計画の基本から考える～ 講師：奈良大学文学部教授 元・瀬戸内市民図書館長 嶋田学氏 演習：グループディスカッション 「サービスの現状課題を分析し、改善方法を考える」 ※オンライン開催	16人

【東部図書館】

事業名	実施日等	実施状況	参加人数
公共図書館新任職員 研修会	7月17日(金)	「公共図書館の役割、利用サービス、レファレンスサービス、児童サービス及び相互協力業務等」講師 当館職員	13人
課題解決支援サービス 研修会	11月26日(木)	「図書館とまちづくり ～地域・行政との連携～」 講師 内野安彦氏 同志社大学嘱託講師、元塩尻市立図書館長、元鹿嶋市立図書館長	21人
千葉経済大学短期大学部と千葉県立東部図書館との連携研修会	2月12日(金) ～ 3月23日(火)	「レファレンスサービス『記録・調査方法を学ぶ』」 講師 齋藤誠一氏 千葉経済大学短期大学部教授 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、メールのやりとりでのレファレンス課題の実施、回答の添削など、非来館型で実施。	16人

第2 子どもの読書活動の推進

1 子どもの読書活動の推進拠点

(1) 子どもの読書活動推進センター機能の充実

読み聞かせボランティア入門講座を館山市で開催、読み聞かせ講座をさわやかちば県民プラザと共催で書面開催した。関係機関・団体等との連携推進を図り、子どもの読書活動推進センター機能の充実に努めた。

(2) 来館者サービス

資料の貸出し、子どもからの調査相談、読書相談及び児童資料・子どもの読書活動に関する大人からの調査相談のほか、定例おはなし会や冬のおはなし会を開催した。また、「子育て支援情報コーナー」の資料や情報の充実を図った。子育てに関する新着図書案内を作成し、館内で配布した。また、生涯学習課や子育て支援課と連携し、子育てに関するパンフレット等の収集、提供を進めた。〈中央〉

(3) 市町村立図書館等への支援

市町村立図書館等への資料の貸出しや調査相談、運営相談を行った。

「児童サービス基礎研修会」を開催し、市町村立図書館等の児童サービス担当職員の養成に努めた。(中央)

山武市成東図書館のイベント「U-20講座」に協力館として、事前の広報や当日の運営補助を行った。(東部)

(4) 読み聞かせボランティアの養成

「読み聞かせボランティア入門講座」を開催するとともに、学校図書館が実施する子どもの本の読み聞かせボランティアを養成する講座等に講師として職員を派遣した。(中央)

(5) 出張おはなし会

博物館等関係機関で開催するイベント等に協力し、職員が出向いて、おはなし会や読み聞かせを行うことを計画していたが、新型コロナウイルスの影響で見合わせた。(中央)

(6) ヤング・アダルトサービスの実施

県立図書館ホームページ内のヤング・アダルトサービスのページの充実に努めたほか、Twitterでの中高生向けのおすすめ本の紹介を開始した。(中央)

(7) 障害者用資料の製作

児童資料の点訳絵本等を製作した。(中央)

2 学校図書館への支援

(1) 高等学校・特別支援学校向け貸出用資料の整備

「高等学校・特別支援学校用セット」を令和2年度は新規・改訂8セット、192冊を整備した。総セット数132セット、総冊数3,717冊

県立図書館の学校支援事業を周知し、活用を促すために、学校図書館関係者や教職員の研修会等で事業説明や資料配付を行った。

(2) 資料の貸出し・運営相談等

県内の高等学校・特別支援学校等と連携し、資料提供や協力レファレンス、研修等を行った。

資料搬送方法：協力車(西部・東部)、宅配便(中央・西部(協力車未巡回校))

また、高等学校、特別支援学校の運営相談を行った。

- ・中央図書館(高等学校実施なし。特別支援学校2校。)
- ・西部図書館(奉仕対象地域内の高校2校へ訪問、特別支援学校は訪問読書支援の際に実施。)
- ・東部図書館(奉仕対象地域内の高校21校及び特別支援学校6校、大学2校に対し、延べ30回の運営相談を実施した。)

【中央図書館】

ア 宅配便による資料搬送 登録校 77校

中央図書館の利用未登録高校・特別支援学校へ広報活動を行い4校が新規登録した。要望の多い貸出セットや改訂が必要なセットについて調査検討を進めた。

イ 高等学校への講師派遣

保育等への進路を希望する生徒や図書委員会活動への支援のため、高等学校等へ絵本の読み聞かせについての講師として職員を派遣した。

(延べ4校 派遣先：市原八幡高、千葉女子高、津田沼高、松戸六実高)

ウ 小・中学校図書館との連携・支援

小中学校図書館には市町村立図書館等を通しての資料貸出しを行った。また、学習でも使

える「千葉県の民話リスト」「千葉県にゆかりのある人物リスト」について、広く活用してもらえよう、運営相談等で広報を行った。

中学校の教科書単元・テーマ別資料リスト（持続可能な社会、健康な生活と病気の予防、食育）を作成・公開するとともに、運営相談時に市町村読書施設等へ紹介した。

【西部図書館】

- ア 協力車巡回による資料搬送 登録校40校
- イ 宅配（ゆうパック）による資料搬送（管内協力車未巡回校対象）登録校30校
- ウ 奉仕対象地域内の利用未登録高校・特別支援学校へ文書による事業説明、勧誘を行った。

【東部図書館】

- ア 協力車巡回による資料搬送 全29校中23校
運営相談時に協力車の巡回を勧め、東金特別支援学校が令和3年度より新規加入することとなった。
- イ 2回の海匝地区指導行政連絡会議は書面開催であった。県立図書館の学校支援について、説明する文書を送付した。

（3）特別支援学校への訪問による読書支援

希望のあった学校に対し、読み聞かせ等を行った（中央図書館4校、西部図書館3校、東部図書館2校）。

なお、感染症拡大防止のため訪問を中止した学校へは、絵本の貸出しや利用促進のための案内の送付を行った。

第3 課題解決支援図書館機能の充実

1 調査研究に役立つ資料の収集と情報の提供

（1）県立全館の資料整備

県民の調査研究活動を支援し、市町村立図書館等及び高等学校等への協力・援助を行うため、3館が連携・分担して収集、整備した。

なお、電子書籍については、電子出版制作・流通協議会の発表などを参考としながら、動向調査を進めた。

資料整備実績

区分	中央図書館	西部図書館	東部図書館	合計
購入図書資料	4,663 冊	3,719 冊	2,452 冊	10,834 冊
寄贈図書資料	2,964 冊	428 冊	478 冊	3,870 冊
千葉県関係資料	1,580 冊	236 冊	226 冊	2,042 冊
逐次刊行物（購入）	152 タイトル	285 タイトル	194 タイトル	631 タイトル

（2）資料の保管

収集資料を継続的・効率的に維持保存・利用するため、蔵書点検を行った。（中央図書館と西部図書館は2月2日～2月10日、東部図書館は3月3日～3月12日）

（3）市町村立図書館等除籍資料の保存

県内の最終的な保存図書館として、市町村立図書館等の除籍資料を収集した。

区分	中央図書館	西部図書館	東部図書館	合計
図書	344 冊	0 冊	162 冊	506 冊
雑誌	27 冊	368 冊	0 冊	395 冊

(4) 電算業務

・業務系システム

県立図書館の電算システムは、昭和59年度から開発した独自システムを西部図書館開館時(昭和62年)に導入したのが最初である。平成8年度には同システムの改良版を中央図書館に、また、平成10年度に開館した東部図書館にも導入することにより、3館独自の電算システム運用体制が整備された。その後、平成19年から、3館のシステムを統合した「千葉県立図書館統合電算システム」に移行し、中央図書館が管理・運用を行っていた。平成24年11月、電算システムを一新(契約:NECキャピタルソリューション開発:日本電気株式会社)し、更に機能を充実させた「千葉県立図書館情報システム」を導入し、現在は2期目に入っている。

《電算システムの概要》

館名	現行システム(平成29年11月更新)				電算システムの導入時期	
	機器名	基本ソフト名	端末機器(台)(※3)			
			業務用	利用者用		
中央	日本電気(株)	Express 5800 (※1)	LiCS-Web II	41	20	平成8年
西部				32	26	昭和62年
東部				27	23	平成8年(※2)

(※1) 本体は外部に設置している (※2) 東部図書館は開館準備時から導入
(※3) 他に研修用21台、予備5台

・インターネット系システム

平成13年から導入した図書館ホームページでは、所蔵資料の検索・予約、県内図書館横断検索(53機関、71コンテンツ)、メールレファレンスの受付などのほか、図書館からの様々な情報発信を行っている。

(ホームページへのアクセス件数 351,445件)

《横断検索参加自治体及び施設一覧》

(令和3年3月末現在)

自治体 (35市4町1村)	[中央エリア] 千葉市、市原市、習志野市、八千代市、佐倉市、成田市、四街道市、八街市、富里市、茂原市、勝浦市、館山市、鴨川市、南房総市、木更津市、君津市、袖ヶ浦市、酒々井町、大多喜町、長生村
	[西部エリア] 市川市、船橋市、浦安市、松戸市、柏市、野田市、流山市、我孫子市、鎌ヶ谷市、印西市、白井市
	[東部エリア] 銚子市、香取市、匝瑳市、旭市、東金市、山武市、大網白里市、横芝光町、多古町
大学(4)	千葉大学附属図書館、千葉科学大学図書館、城西国際大学水田記念図書館、放送大学附属図書館
専門(2)	アジア経済研究所図書館、財団法人成田山仏教図書館
県類縁施設(3)	千葉県文書館、千葉県総合教育センター、千葉県立博物館
その他(4)	国立国会図書館、国立情報学研究所、科学技術振興機構、日本出版インフラセンター

・その他システム

平成24年度から3館で公衆無線LANサービスを導入している。

2 調査研究や政策形成の支援

(1) 調査相談業務（レファレンスサービス）

ア 調査回答

図書及び新聞・雑誌、マイクロ資料等の所蔵資料、インターネット情報源、データベース等を活用し、口頭や電話、メール、文書等による個人や市町村立図書館等からの調査相談に対し的確に回答した。

イ パスファインダー（調べ方案内）、ブックリスト等の作成

県民ニーズを把握し、県民が関心を持つテーマに関する調べ方を紹介するパスファインダーを作成した（新規4件、改訂2件）。

また、時事問題等に関する新たな情報提供サービスを開始し、「図書館から世界（ニュース）が見える」を12号発行した。

さらに、東部図書館では、「東日本大震災10年～「あの時」と「今」～」「オリパラ展示「ホストタウン相手国を知ろう」」など時宜にかなった展示を定期的に行うとともに、ブックリストを作成、提供した。並びに、中央図書館では、「赤羽末吉さんの本～生誕110年を記念して～」 「国語の教科書で紹介された本」など児童書関連の展示リスト4件、教科書単元・テーマ別資料リスト3件を作成した。

その他、西部図書館では、「新型コロナウイルス感染症（関連リンク集）」を作成し、中央図書館では、令和元年度に作成した「新型コロナウイルス対策のために学校がお休みのみなさんへのリンク集」を「読書や学習に役立つ子どものためのリンク集」と改題更新して提供した。

〈調べ方案内(パスファインダー) 令和2年度作成・改訂一覧〉

テ	マ	作成館
図書を探す（改訂）		中央図書館
風水害について調べる		〃
千葉県の祭りについて		〃
千葉県の新聞記事を探す（改訂）		〃
日本の遺跡		東部図書館
古文書を読む		〃

〈図書館から世界（ニュース）が見える 令和2年度作成一覧〉

テ	マ	作成館
自治体とSNS情報発信		中央図書館
地質時代「チバニアン」		〃
新しい働き方		〃
子どもの心の健康～コロナ禍を踏まえて～		〃
キャッシュレス決済		〃
特殊詐欺		〃
子どもとマスク		〃
避難所運営と感染症対策		西部図書館
食品ロス		〃
高齢者の介護予防と健康長寿		〃
高齢者の運転		東部図書館
外国人技能実習制度		〃

ウ レファレンス事例の公開

調査回答事例の中から公開用事例として85件を国立国会図書館レファレンス協同データベースに提供し、県民がホームページで閲覧できるよう登録した。

エ 国立国会図書館の提供する「図書館向けデジタル化資料送信サービス」の利用

「図書館向けデジタル化資料送信サービス」が調査研究に活用されるよう県民への広報を行うとともに、資料の提供、複写サービスを行った。

オ データベースの利用促進

データベースの利用を促進するため、利用者向けのデータベース活用講座を開催した。

カ 課題解決支援の取組と講座の開催

中央図書館では、「くらしに役立つ法律・判例情報コーナー」の法律・判例関係資料の充実、関連情報の提供に努めた。西部図書館では、医療・健康情報の振り返りプロジェクトによりサービスの振り返りを行い、「医療・健康情報コーナー」の充実、関連情報の提供に努めた。東部図書館では、シニアの暮らしに役立つ資料の充実、関連情報の提供に努めた。

また、中央図書館では、県民向けの課題解決支援講座「くらしに役立つ法律・判例情報講座」（2回）や「データベース活用講座」（1回）を開催した。

〈課題解決支援講座（一般向け）〉

事業名	実施日等	実施状況	参加人数
【中央図書館】 くらしに役立つ法律・ 判例情報講座	11月8日(日)	講演「災害時に役立つ法律の話」 講師 法テラス千葉法律事務所 弁護士 内山傑史氏 会場 君津市生涯学習交流センター	15人
	1月13日(水)	「災害・コロナ対応も調べられる！法情報データベースの活用法」 講師 第一法規株式会社 山内享郎氏 会場 オンラインによる遠隔開催	12人
【中央図書館】 データベース活用講座	11月11日(水)	一部「ヨミダス歴史館」活用講座 講師 読売新聞東京本社 メディア局 丸山典昭氏 二部「毎索」活用講座 講師 毎日新聞社 デジタルメディア局 狭間健治氏 会場 県庁本庁舎	17人

(2) 閲覧業務

ア 資料の館内利用・貸出し

図書及び新聞・雑誌、マイクロ資料等所蔵資料や、県内外の他の公共図書館及び国立国会図書館、大学図書館等からの相互貸借により、資料の提供や貸出し、複写サービスを行った。

イ 図書館への来館が困難な利用者に対する情報提供

自宅への図書の直接貸出を希望する県民（資料貸出券の発行を受けている方）に対して、郵送（送料自己負担）による図書（一部の資料を除く）の貸出し、返却サービスを平成30年9月から行っている。令和2年度は133件354冊の利用があった。

ウ 資料の展示

所蔵資料の特長を活かしたテーマを設定し、県民に広く周知するために、各館展示コーナー等を利用し、定期的に資料展示を行っているが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中央図書館千葉県資料室、新聞雑誌室及び一般資料室並びに西部図書館においては、資料展示を休止した。

〈資料展示（展示コーナー等による資料の紹介）〉

【中央図書館】

展示場所	展 示 名	期 間
児童資料室	赤羽末吉さんの本～生誕110年を記念して～	6月2日（火）～7月5日（日）
	国語の教科書で紹介された本	8月25日（火）～10月4日（日）
	古典に親しむ本～文学作品から芸能まで～	12月15日（火）～1月31日（日）
	絵本で楽しむ 世界の国ぐに	2月23日（火）～4月15日（木）

※児童資料室にて「図書館が登場する本」「縄文の日」等のミニ展示を通年で65回実施。

【東部図書館】

展示場所	展 示 名	期 間
展示 コーナー	教科書の世界	5月26日（火）～7月16日（木）
	戦争の記憶	7月19日（日）～9月18日（金）
	家で楽しむ美術館	9月19日（土）～11月19日（木）
	千葉県 of 考古学	11月21日（土）～1月31日（日）
	東日本大震災10年	2月4日（木）～4月15日（木）
資料紹介 コーナー	東総にゆかりのある人々	6月5日（金）～7月16日（木）
	世界の旅を読む	7月18日（土）～9月18日（金）
	読書の秋 本に出会うための本	9月20日（日）～11月19日（木）
	美味しい本を召し上がれ	11月21日（土）～1月31日（日）
	SDG s を知ろう	2月9日（火）～5月20日（木）
オリンピッ ク・パラリ ンピック関 連資料展示 コーナー	ホストタウン相手国を知ろう	9月24日（木）～5月20日（木）

※カウンター前にて「三島由紀夫 没後50年」「渋沢栄一」等のミニ展示を、通年で13回実施。

（3）各種講座の開催

各種講座を実施し、県民の学習機会の拡充に努めた。

【中央図書館】

県民の読書活動の推進や課題解決を支援するため各種事業を実施した。

〈令和2年度実施事業〉

事業名	実施日等	実 施 状 況	参加人数
定例おはなし会	毎週土曜日 午後	全9回 語り手 当館職員 ※11月、12月のみ実施	延べ23人
親子で楽しむえほんの 会	毎月第2 金曜日	語り手 当館職員 ※11月、12月のみ予定したが、参加者なし	0人
読み聞かせボランティア 入門講座	9月30日（水）	「絵本の読み聞かせ－選び方と読み方の実践－」 講師 ゆか下文庫・主宰 小谷孝子氏 ゆか下文庫 川寄麻希子氏 会場 館山市中央地区学習等共用施設 菜の花ホール	23人
読み聞かせ講座 （教職員向け・県民向 け）	7月31日（金） ～ 9月4日（金）	「読み聞かせにおける、絵本の選び方と読み 方について」 講師 当館職員 〔さわやかちば県民プラザ共催〕	19人

		会場 さわやかちば県民プラザ ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、 書面開催とした。	
冬のおはなし会	12月20日(日)	語り手 当館職員	21人
くらしに役立つ法律・ 判例情報講座		前掲	
データベース活用講座		前掲	
読書支援機器活用講座	12月15日(火)	「弱視者から全盲者まで 様々な不便さを解 消するためのスマートフォン&タブレットの 使い方を紹介します」 講師 MDSiサポート代表 井上直也氏	12人
サピエ図書館活用講座	12月15日(火)	「視覚障害者情報ネットワーク「サピエ図書 館」の活用方法とその実践」 講師 株式会社ラビット 荒川明宏氏	13人
図書館音訳者養成講座	11月10日(火) 12月8日(火)	「聞きやすい録音図書を製作するために校正 を学ぶ」 講師 音訳指導者 高橋久美子氏	延べ17人

【西部図書館】

県民生活上の課題解決を支援するため、各種事業を実施するとともに、当館の特色（自然科学・工学）を生かした「サイエンス・カフェ」を開催した。

障害者サービスについては、「障害者のための資料デジタル化講座」等を開催し、読書相談など幅広い情報提供に努めた。

〈令和2年度実施事業〉

事業名	実施日等	実施状況	参加人数
障害者のための資料デ ジタル化講座	8月25日(火)	第1部・第2部 講義・実習：図書のテキストデータ化の基本 操作 講師：全国音訳ボランティアネットワークテ キスト訳者 吉岡真喜子氏 ※オンライン同時開催	24人
サイエンス・カフェ	11月7日(土)	「過去に学ぶインフルエンザ・パンデミック (スペイン風邪)～100年前、日本人はいかに 戦ってきたか～」 講師 千葉県立中央博物館 内田龍哉氏	17人
図書館音訳者養成講座 (初級)	10月30日(金) 10月31日(土)	「DAISY編集初心者講習」 講師：DAISY TOKYO 森田聡子氏ほか講習スタッフ4名	延べ27人
図書館音訳者養成講座 (中級)	11月27日(金) 12月9日(水)	「図・表・写真の処理～目の代わりとして」 講師：元静岡県点字図書館副館長 熊谷成子氏 ※オンライン同時開催	延べ47人
障害者のための読書支 援機器活用講座	2月24日(水)	講演：障害者の情報支援機器の最新動向 スマートグラス等（ウェアラブル端末）の 活用について 講師：株式会社ラビット 荒川明宏氏 事例発表：県立図書館で試行している新しい	23人

	サービスについて（当館職員） ※オンライン同時開催	
--	------------------------------	--

【東部図書館】

県民の読書活動推進のため「歴史講座」と「文学講座」を開催した。

また、障害者サービスについては、音訳者の意義と役割について基礎的な知識を習得するために「図書館音訳者養成講座」を開催した。

〈令和2年度実施事業〉

事業名	実施日等	実施状況	参加人数
図書館音訳者養成講座	11月11日(水)	第1回「録音図書製作基準の改正について」 講師 東部図書館障害者サービス担当職員	7人
	11月18日(水)	第2回「マニュアル確認・演習」 講師 東部図書館障害者サービス担当職員	7人
歴史講座	9月18日(金)	「寺社参詣の旅と房総」 講師 千葉県文書館職員 中川和明氏	19人
文学講座	11月1日(日)	「古典作品としての『日本書紀』は「ヤマトタケル」像をどう描いたか」 講師 相模女子大学学芸学部 日本語日本文学科教授 山田純氏	34人

(4) 県庁各課等への情報提供

県民生活の維持向上等に係る施策を企画・立案している県庁各課等へ、業務で必要な資料の貸出しや調べものの支援として情報提供サービスを行った（貸出冊数：1,277冊）。

また、県出先機関への郵送サービスを行った（貸出冊数：148冊）。

第4 千葉県に関する資料や情報の蓄積、継承

1 千葉県関係資料の計画的な収集整備、保存

(1) 資料の計画的な収集

千葉県関係資料の網羅的・系統的な収集に努めるとともに、文書館などの関係機関と連携し、県庁ホームページや文書などにより、官公庁など関係部署へ定期的かつ幅広く寄贈依頼を行った。また、新聞記事や広報などにより資料の刊行情報を入手した際には改めて発行元に寄贈依頼を行い、幅広い収集を行った。

・千葉県資料受入数 購入296 寄贈1,746 合計2,042冊

(2) チラシ等の作成・配布、研修会の開催と広報

千葉県に関する調べ案内（パスファインダー）、千葉県資料のテーマ別資料リスト、菜の花ライブラリーの使用方法の印刷物を作成・配布した。また県内公共図書館等職員を対象に、地域行政資料に関する知識を深め、日常のレファレンス業務や資料の保存・提供の充実を図るため、研修会を実施した。

(3) 東日本大震災及び防災関連資料・情報の収集・提供

国立国会図書館と連携し、千葉県における東日本大震災や防災に関する資料・情報の収集・

保存等の取組を強化するため、チラシ等により県民に寄贈を呼びかけるとともに、図書館ホームページの東日本大震災千葉県関連サイトによる情報提供に努めた。

2 千葉県関係資料の情報発信の推進

(1) 千葉県関係の情報検索ツールの充実

国立国会図書館レファレンス協同データベースへのデータ提供、千葉県関係の新聞・雑誌記事索引、千葉県に関する調べ案内（パスファインダー）、千葉県資料のテーマ別資料リスト等の情報検索ツールを作成し、レファレンスサービスの充実に努めた。

- ・千葉県関係として国立国会図書館レファレンス協同データベース27件、パスファインダー2件、テーマ別リスト9件、「図書館から世界（ニュース）が見える」1件を追加した。

(2) 貴重資料保存のためのデジタル化

地図・郷土誌、県が編集発行した行政資料などのうち、刊行から時間が経過して著作権が消滅した資料を選んでデジタル化を実施した。また作成したデジタル画像データを菜の花ライブラリーで公開し、インターネットを通じて閲覧できるようにした。

今後の資料デジタル化の方向性を検討した結果「千葉県関係資料のデジタル化の長期方針」が令和2年に実務運営委員会で承認された。

第5 知の創造と循環を生み出す公共の場

1 博物館など関係機関との連携

博物館や文書館、さわやかちば県民プラザ等と連携して、展示、講座等を実施した。関係機関が実施する講座等へ、職員を講師等として派遣した。

【中央図書館】

- ・さわやかちば県民プラザとの連携（読み聞かせ講座〈書面開催、19人〉）
- ・法テラス千葉法律事務所との連携（「くらしに役立つ法律・判例情報講座」〈15人〉）
- ・千葉県読書推進運動協議会との連携（「文芸講演会」〈30人〉）
- ・中央博物館との連携（企画展示関連行事への参加、ブックリストの作成等）
- ・千葉県学校図書館協議会、千葉県教育研究会学校図書館教育部会及び千葉県高等学校教育研究会学校図書館部会との連携（「第31回読書感想画中央コンクール」千葉県入賞作品の展示会）

【西部図書館】

- ・中央博物館との連携（サイエンス・カフェ〈17人〉）

【東部図書館】

- ・千葉県文書館との連携（歴史講座〈19人〉）
- ・千葉県立美術館との連携（展示「家で楽しむ美術館」で美術館の展示資料を紹介）
- ・旭いとおか文芸賞「海へ」実行委員会との連携（文芸賞審査への参加）

2 すべての県民が利用しやすく快適な社会教育施設

(1) 高齢者・障害者サービス

年齢や障害のために図書館利用が困難な方が資料の提供を受けられるように、各種サービスや研修会を実施し、市町村立図書館等への普及を図った。また、先進事例を調査・研究し、サービスの推進を図るため、中央図書館児童資料室内に点訳絵本やさわる絵本、LLブックなどバリアフリー資料を集めた「りんごの棚」を設置し、手に取りやすい形での資料提供を行っている。

ア 録音図書の貸出し・製作

希望する録音図書を所蔵資料だけでなく、全国の点字図書館や公共図書館より借り受けて提供した。また、所蔵していない場合は、自館で製作し貸出しを行った。

- ・録音図書の貸出タイトル数：11,449
- ・点訳絵本を6タイトル、録音図書を13タイトル作成した。

イ 対面朗読

図書館音訳者が図書館の蔵書や持込みの資料などを朗読する対面朗読については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため一時休止したが、7月から、研修室、会議室等の広い部屋で、感染防止策を講じながら再開した。

西部図書館では、2月からオンラインによる遠隔対面朗読サービス（試行）を開始した。

ウ 活字資料のテキストデータ化（西部）

利用者へ迅速に情報提供できるよう、希望する活字資料をテキストデータ化してパソコン等で音声化するサービスを行った（テキストデータ編集：13タイトル）。併せて、作業に従事する図書館音訳者等向けに「障害者のための資料デジタル化講座」を開催した。

エ 録音図書等のデータ提供

「視覚障害者情報総合ネットワーク（サピエ）」に、所蔵する録音図書等の目録情報を、また、「国立国会図書館視覚障害者等用データ送信サービス」へ、製作した録音図書等のデータを提供し、利用者がインターネットで利用できる環境を整備した。提供したデータの令和2年度の利用数は、5,208件であった。

オ 図書館音訳者の養成

録音図書の製作や対面朗読を行う図書館音訳者を委嘱するとともに、音訳者の資質向上のための講座を開催した。

カ 研修会の開催（西部）

市町村立図書館等職員の公共図書館における障害者サービスの向上や、特別支援学校教職員への障害者サービスの啓発を目的に、障害者サービス研修会を開催した。

キ 読書支援機器活用講座の開催（中央、西部）

活字による読書の困難な方とその支援者や市町村立図書館職員、特別支援学校教職員等を対象に、拡大読書器や活字を読み上げる機器、デジタル録音図書の再生機器の説明会並びにICTを活用した読書の最新動向の紹介等を実施した。

ク サピエ図書館活用講座の開催（中央）

インターネットを活用して、録音図書・点字図書オンラインデータベースを体験する講座を開催した。

ケ 高齢者サービスの推進（東部）

高齢者サービスの課題を整理し、「はつらっライフコーナー」の充実を図った。

（2）広報・啓発業務

県立図書館の機能・役割を県民に広く周知するために、「要覧」、「千葉文化 千葉県立中央図書館報」、「West Library 千葉県立西部図書館だより」、「知識は旅をする 千葉県立東部図書館だより」、「利用案内」の編集・発行等のほか、次の事業を行った。

なお、職場体験・インターンシップの受入れについては、新型コロナウイルス感染拡大防止等のため実施しなかった。

ア 県立図書館ホームページの充実

イ オリンピック・パラリンピックをテーマにした展示の実施（東部）

ウ 広報紙等やソーシャルネットワーキングサービスを活用した所蔵資料・事業内容紹介

エ 千葉県資料の県民向け広報の実施（中央）

オ 広報紙等による所蔵資料・事業内容紹介

(2) 千葉県立図書館行動計画(平成30～令和2年度)の実施状況及び自己評価一覧(報告)

※元号表記凡例 H:平成 R:令和

※目標値に対する達成状況凡例 ○:達成 ×:未達成

役割・機能	重点項目	取組	計画期間における主な取組(実施状況)	評価指標	R2 目標値	実績値			目標値に対する 達成状況	達成状況等についての説明・評価	
						H30	R1	R2			
1	図書館ネットワークの発展	(1) 市町村立図書館等への支援の強化	【市町村立図書館等への貸出し、相談事業等の推進】 ・市町村立図書館等を通じた貸出しについて広報を進める。 ・毎年全市町村を訪問し、図書館の運営等についての調査相談を行う。	・市町村立図書館等を通じた貸出しについての広報用ポスター「あなたに本を届けるために」(300部)を作成した(H30)。 ・毎年、教育機関を対象とした研修会等の場で、市町村立図書館を通じた貸出しについての広報を実施した。 ・市町村立図書館等を通じた団体貸出用十冊文庫(701タイトル所蔵)の整備を継続し、読書グループ案内チラシを作成・配布した(R1)。 ・毎年全市町村を訪問し、図書館の運営等についての調査相談を実施し、また、情報の共有として、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う市町村立図書館等の臨時休館等の状況及び開館後のサービス状況を調査し、ホームページに掲載した。	市町村立図書館等への貸出冊数	75,000	72,468	69,077	62,946	×	市町村立図書館等への貸出冊数については、3年間を通じて、目標値に届かなかった。 新型コロナウイルス感染症による県内図書館の休館の影響もあるが、目標値の8割方の貸出しは維持した。 R2年度の利用者アンケートでは、蔵書の充実が続いて、貸出・返却場所の拡充の要望が多かった。今後は、冊数だけではなく、市町村立図書館からのリクエスト資料や、県民の資料・情報要求の分析、購入図書を選定・納入を早めるなど、利便性向上についての改善も課題である。 県内での最後の1冊保存体制について、市町村立図書館が活動しやすいものとなるよう、県内図書館や公共図書館関係団体の意見を十分聞きながら、千葉県での協力保存の方向性や課題について検討していく。
			【新館における物流体制の検討】 ・現状の課題等について市町村立図書館等に聴取し、新館整備に向けて検討を進める。	・新館における物流体制の検討については「公共図書館・公民館図書室等読書施設の実態調査」を実施し、各自治体内資料搬送状況の把握を行った。また、今後実施予定の「県内市町村立図書館等読書施設への支援に関するアンケート」の質問項目の検討を行った。 ・1館集約後の物流体制については、3館物流担当者会議で高校への配送方法及び県立図書館資料の受取・返却場所の拡張可能性を検討中である。							
			【県内最後の1冊保存体制の検討】 ・国内の先行事例について調査を行う。 ・現状の課題等について市町村立図書館等との情報交換を進める。	・県内最後の1冊保存体制について、国内先行事例などの文献調査を行った。今後は個別調査のための調査項目をまとめ、図書館や団体において、事業の取組又は検討内容についての調査及び県内市町村立図書館等への意見聴取を検討している。							
2	図書館職員研修センター機能の強化	(1) 図書館職員研修センター機能の強化	【経験別、分野別研修の実施】 ・研修結果の分析をし、研修プログラムの充実を図る。	・新任職員、児童・レファレンス・障害者・課題解決支援の各研修を実施した(延べ59回開催)。 ・各研修時のアンケート結果により研修ニーズを把握し、内容の充実を図った。	研修受講者の満足度	90.0%	90.6%	90.6%	94.5%	○	研修受講者の満足度については、目標値を4.5ポイント上回った。 研修ニーズの把握に努め、内容の充実を図ったほか、特にR2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止策として、オンラインでの遠隔研修を実施し、遠隔地からの講師の招聘と全体的な受講が可能になったことも、満足度向上の一因になったものとする。 研修内容のアーカイブ化についても、先行事例の研究と課題の精査を図りながら適切な構築方法を探っていく。
			【研修機会の拡充】 ・開催方法を検討し、地域別開催を実施する。	・中央図書館主催研修事業は県文化会館、中央博物館等を会場として実施した。また、新任職員研修会を地域別に開催した。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、一部の研修会について遠隔研修や分散開催を実施した。							
			【研修内容のアーカイブ化】 ・国内の事例等について調査し、課題等の洗い出しを行う。	・研修内容のアーカイブ化(ホームページでの公表等)について、今後実施予定の「県内市町村立図書館等読書施設への支援に関するアンケート」や他県調査等での質問項目の検討を進めた。							

役割・機能	重点項目	取組	計画期間における主な取組(実施状況)	評価指標	R2 目標値	実績値			目標値に対する 達成状況	達成状況等についての説明・評価	
						H30	R1	R2			
子どもの読書活動の推進	(1)	地域の子どもの読書環境整備の推進	<p>【読み聞かせ講座の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館未設置市町村等で読み聞かせ講座を実施する。 講師養成のためのカリキュラムについて研究を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせボランティア入門講座を図書館未設置市町村等の計7自治体において実施した(延べ182名参加 鴨川市、大網白里市、東金市、いすみ市、長南町、多古町、館山市)。 さわやかちば県民プラザの読み聞かせ講座の書面開催に際し、パワーポイントを活用するなど、参加者が理解しやすい講師用資料を作成し、講師養成のためのカリキュラム研究の一助とした。 	読み聞かせ講座の受講者数	80	105	54	23	×	<p>読み聞かせ講座の受講者数は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う開催中止や定員縮小が影響し、目標値に達しなかった。</p> <p>子育てに関する情報提供については、他機関との連携が少しずつ行われるようになっており、引き続き連携の可能性を探り、広げていく。</p> <p>県立学校等での読み聞かせも含め、地域ボランティア等の育成方法について市町村立図書館等とより一層の連携を図っていく。また、児童書の網羅的収集による児童サービス支援の検討を進めていく。</p>
		<p>【子育て支援情報サービスの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育てに資する図書等を収集するとともに、県関係機関と連携しながら子育て支援情報の発信を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 子育てに関する新着図書案内を作成し、館内で配布した。 生涯学習課や子育て支援課、児童生徒課と連携し、子育てに関するパンフレット等の収集、提供のほか、「そとと悩みを相談してねSNS相談@ちば」開設をツイートするなど、子育て支援情報を発信した。 								
		<p>【児童書の網羅的収集の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市町村立図書館等が児童書を購入する際の参考となるような収集方法について、国内の先行事例等の調査を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童書の網羅的収集について、国内の先行事例など文献調査を行った。また、児童サービスを行っている都道府県立図書館に照会した。これらの結果をもとに、実施している図書館への個別調査を行う予定である。 								
	(2)	学校図書館への支援の強化	<p>【県立学校等への貸出し、相談事業等の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県立学校等の相互貸借について実態調査を進める。 要望の多い貸出セットの重複購入を検討する。 生徒向け読み聞かせ講座、図書館活用講座等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 管内高校及び特別支援学校への運営相談、貸出資料を活用した授業の参観や学校訪問等の機会を捉え、相互貸借についての実態調査を行うとともに、未登録校へは新規登録のための事業説明を行った。 要望や指導要領改定を鑑み、新規・改訂計132セット(3,717冊)の貸出セットを整備し、3年間で計707件、23,051冊の利用となった。 高等学校において保育等への進路を希望する生徒や図書委員会活動への支援のため、生徒向け読み聞かせ講座に職員を講師として派遣した。 	県立学校等への貸出冊数	31,000	32,999	24,359	18,841	×	<p>県立学校等への貸出冊数については目標値を下回った。</p> <p>H30年度は目標値を達成したが、R1年度と2年度は目標値を達成しなかった。特にR2年度は、学校再開後も授業時数の関係から図書を使った授業にまで至らなかったものと思われる。</p> <p>学校での資料活用方法について、ホームページでの発信、貸出セットの新規・改訂の整備などを行うとともに、教員等のニーズを汲み取り、新しい学習指導要領に応じたサービスを推進する。</p> <p>学校の図書委員会を取材した情報発信や、「とよ部っ！～中高生の本たな～」の開設などヤングアダルトへの取組に着手しており、引き続きサービスの研究、実践を進めていく。</p> <p>特別支援学校訪問読書支援については、「図書館の使い方」授業など、読み聞かせや運営相談からの新たな展開があった。今後もニーズと支援方法を探りながら読書支援を推進していく。</p>
		<p>【特別支援学校への読書支援の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校訪問等でニーズと支援方法を探り、読書支援を継続、推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校・高等学校への訪問読書支援として、絵本の読み聞かせに手遊び・わらべうたを交えた「おはなし会」を実施するとともに、運営相談に応じた。 高等部から「図書館の使い方の授業」の要望があり、希望する学校で実施した(西部)。 								
		<p>【市町村立図書館等と小中学校との連携への支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市町村立図書館等と小中学校との連携状況を調査する。 小中学校支援モデル事業として貸出セットの作成を検討する。 図書館未設置市町村等が小中学校との連携を推進できるよう、資料の支援に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 市町村立図書館等と小中学校との連携状況を聴取し、授業に対する貸出期間の不足等、利用上の課題が判明したので、引き続き小中学校支援について検討していく。 小中学校支援モデル事業としての貸出セットの作成には至らなかったが、図書館未設置市町村への訪問時に教科書単元・テーマ別資料リストとその図書見本を持参し、管内小学校等への周知を依頼した。市町村立図書館等を通しての小中学校への貸出は3年間で2,930冊となった。 								

役割・機能	重点項目	取組	計画期間における主な取組(実施状況)	評価指標	R2 目標値	実績値			目標値に対する 達成状況	達成状況等についての説明・評価
						H30	R1	R2		
4 課題解決支援図書館	(1) 課題解決支援、調査研究機能の強化	【課題解決支援サービスの充実】 ・法律情報支援サービス、医療情報支援サービス、シニア支援情報サービス等を推進する。 ・個人への郵送貸出サービスを実施する。 ・行政課題等の解決に資する資料を収集、提供する。	・法律情報支援サービス:くらしに役立つ法律・判例情報講座を県内市町村図書館を会場として実施した。(中央) ・医療情報支援サービス:H30年度に国立がんセンター寄贈のがんに関する資料を設置。R2年度からプロジェクトチームによりH25年度のサービス開始から今後を見据えた振り返りに着手した。(西部) ・シニア支援情報サービス:「はつらつライフなび」コーナーで関連展示実施。 ・個人への郵送貸出サービスをH30年9月から開始、R2年度末までに、162件426冊の利用があった。また、R2年度は郵送による資料貸出券交付申込みについての利用規則の改正を進めた。 ・行政課題等の解決に資する資料は適宜収集し、県庁内掲示板にテーマ別資料一覧を更新して、情報提供に努めた。 ・R2年度末までに県庁への情報提供サービスは57部署から1,693冊の利用があり、そのうち347冊を出先機関への資料郵送サービス(H30年6月開始)により提供した。	課題解決支援のための情報発信件数(レファレンス協同データベース)	90	112	103	87	×	課題解決支援のための情報発信件数については、目標値を達成しなかった。 H30年度とR1年度は目標値を達成したが、R2年度はやや目標値を下回った。 集会事業を開催できなかったことに伴うブックリストの作成減等が影響したが、時事情報等をまとめた「図書館から世界(ニュース)が見える」の創刊、「新型コロナウイルス感染症(関連リンク集)」「新型コロナウイルス対策のために学校がお休みのみなさんへのリンク集」の作成、Twitterの投稿等により、時宜にかなった情報提供に努めた。 県出先機関への郵送貸出しや個人への郵送貸出しを始めるとともに、郵送による資料貸出券交付申込みに向けた検討・実施を進めた。 課題解決支援に有用な商用データベースを比較検討し、令和元年度に13種を新たに導入するとともに、講座、研修会等での普及に努めた。
		【レファレンス事例の一般公開】 ・国立国会図書館レファレンス協同データベースへのデータ提供を進める。	・レファレンス協同データベースに事例を172件(千葉県関係は5-(1)に別掲)登録した。 ・登録事例の被参照件数及び年間登録数により、国立国会図書館長から同事業への貢献に対する礼状を12年連続で受領した(中央)。							
		【県民向け講座の実施】 ・図書館活用講座、データベース活用講座等を実施する。	・各館の特長を活かし、以下の県民向け講座を実施した。 菜の花ライブラリー活用講座 くらしに役立つ法律・判例情報講座、データベース活用講座(中央) 健康・医療情報講座、サイエンスカフェ(西部) はつらつライフ講座、歴史講座、図書館ナビ(東部)							
		【時事問題等に関する新たな情報提供サービスの実施】 ・時事問題や地域の課題等に関する資料の紹介、ブックリスト等の作成、提供を行う。	・各館で時宜にかなった展示を行い、ブックリストを作成した。 ・新たな情報提供サービスとして、R1年度「図書館から世界(ニュース)が見える」を開始し合計15号(千葉県関係は5-(1)に別掲)刊行した。 ・新型コロナウイルス感染症に関し、「新型コロナウイルス感染症(関連リンク集)」「新型コロナウイルス対策のために学校がお休みのみなさんへのリンク集」(現「読書や学習に役立つ子どものためのリンク集」)を作成した。							
		【電子書籍や商用データベースの動向調査】 ・都道府県立図書館の導入事例や市場動向等について調査を進める。	・当館の収集方針に適した電子書籍サービスのプラットフォーム(動作環境等)などを調査し、導入に向けての検討を行った。 ・先進館の導入事例などを参考に、県民の調査・研究に資する商用データベース13種類をR1年度に追加した。							
		【新館整備に向けた資料管理の検討】 ・重複図書を除籍を進める。 ・重複雑誌を除籍と書誌修正を進める。 ・新館における資料の収集、整理方法について検討を進める。	・重複図書については、中央図書館では汚破損や不明を含めた重複除籍を、東部図書館では対象資料の選定を行った。重複雑誌については西部図書館で除籍を行った。重複雑誌の書誌修正については所蔵館の一本化に並行して進めていく。 ・1館集約に向け、R1年度から分野ごとの分担収集を開始し、業務の効率化を図った。引き続き集約後の図書収集や整理方法等のあり方について、文書館等とも協議しながら検討を行っている。							

役割・機能	重点項目	取組	計画期間における主な取組(実施状況)	評価指標	R2 目標値	実績値			目標値に対する 達成状況	達成状況等についての説明・評価	
						H30	R1	R2			
5	(1)	千葉県関係資料の網羅的収集 ・官公庁など関係部署への寄贈依頼を定期的に行う。 ・出版情報について新聞記事等により把握し、幅広い収集を行う。 【千葉県関係の情報検索ツールの充実】 ・国立国会図書館レファレンス協同データベースへのデータ提供や新聞雑誌記事索引、人名索引、デジタルアーカイブ、パスファインダー、テーマ別リスト、目次情報など、千葉県関係の情報に到達しやすい環境を整備する。 【千葉県資料のデジタル化】 ・地図や郷土誌、県が編集発行した行政資料など利用者ニーズの高いものからデジタル化を進める。 ・国立国会図書館や他県の動向について調査を行い、デジタル化の指針を改定する。 【インターネット上の地域行政資料の動向等調査】 ・ポーンデジタル資料(初めからデジタルデータとして作成されたコンテンツ)やオープンデータ(二次利用が可能な利用ルールで公開されたデータ)の収集、提供など、国内の動向について調査を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・県庁ホームページや文書などで幅広く寄贈依頼を行うとともに、新聞記事や広報紙などの刊行情報の入手、発行元への寄贈依頼により、千葉県関係資料の網羅的収集に努めた。 ・千葉県資料受入数(H30年4月～R3年3月末現在) 購入1,001冊 寄贈5,829冊 合計6,830冊 ・千葉県関係として国立国会図書館レファレンス協同データベースに78件登録、パスファインダー7件作成、「令和元年房総半島台風等の報告書一覧」などテーマ別リスト34件を追加し、「図書館から世界(ニュース)が見える」として「地質時代「チバニアン」」を作成した。 ・千葉日報記事索引、歴史関係雑誌記事索引の入力、公開を継続し、R2年度には、「各市町村史人名索引」を新規公開した。 	千葉県関係資料に関する別冊レポート等	20	38	43	39	○	<p>千葉県に関する情報発信件数については、3年間を通じて目標値を達成した。毎年度、目標値のほぼ2倍の情報発信をすることができた。</p> <p>R2年度は新型コロナウイルス感染症の影響による展示中止に伴う資料リストの作成減等により減少が見られたが、「令和元年房総半島台風等の報告書一覧」を新たに作成し、災害関連資料の情報提供を行った。今後も千葉県関係資料の収集、保存に努めていく。</p> <p>また、今後菜の花ライブラリーにおける各種ツールや情報の充実を図り、広報を進めていく。</p>	
			<ul style="list-style-type: none"> ・連携して実施した展示、講座等は次のとおり。 ・文書館：歴史講座、地域行政資料研修会での視察 ・中央博物館企画展開覧：おはなし会、関連展示 講師招聘：サイエンスカフェ、歴史講座、児童サービス基礎研修会、課題解決支援サービス研修会 ・千葉県博図公連携事業実行委員会：シンポジウム、セミナー ・松戸健康福祉センター：健康・医療情報講座 ・国保旭中央病院：はつらつライフ講座 ・法テラス千葉法律事務所：くらしに役立つ法律判例情報講座 ・千葉県読書推進運動協議会：文芸講演会 ・出張・巡回展示連携先：県民生活・文化課、文化財課、東総文化会館、市川市文学ミュージアム、科学道100冊委員会 ・新村出記念財団：歴史講座 ・旭いとおか文芸賞「海へ」実行委員会(展示、会場提供) ・「読書感想画中央コンクール」千葉県入賞作品展示(会場提供) 講師の派遣は次のとおり。 ・さわやかちば県民プラザ：読み聞かせ講座への講師派遣 ・旭いとおか文芸賞「海へ」実行委員会(審査員派遣) ・中央博物館、さわやかちば県民プラザ、文書館の担当者間で連携事業などについての意見交換会を開催した。 	連携事業の実施回数	10	18	25	13	○	<p>連携事業の実施回数については、3年間を通じて目標値を達成した。</p> <p>R2年度は新型コロナウイルス感染症の影響による事業中止から、過去2年に比べ連携事業の実施回数は少ないものの、目標値は達成した。実施回数については、連携先の事業状況によるところが大きい。多様な関連機関と講師派遣や招聘を行うことで、それぞれが持つ専門性を生かした集事業を開催することができた。</p> <p>今後は展示リストに付加価値をつけて発信することにも注力していく。</p>	
6	(1)	博物館など関係機関との連携の推進 【関係機関との連絡調整会議の実施】 ・博物館や文書館、さわやかちば県民プラザ等関係機関との情報共有を進める。 【オリンピック、パラリンピック関連事業の実施】 ・県関係機関と連携しながらオリパラ関連資料を収集、提供し、展示など県民への広報普及に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携した事業の実施 ・博物館や文書館、さわやかちば県民プラザ等と連携して、展示、講座等を実施する。 ・関係機関が実施する講座等へ、職員を講師として派遣する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中央博物館、さわやかちば県民プラザ、文書館の担当者間で連携事業などについての意見交換会を開催した。 	録音図書の出貸タイトル数	14,000	13,532	12,739	11,449	×	<p>録音図書の貸出タイトル数は、3年間を通じて目標値を達成しなかった。達成率は8割であった。</p> <p>利用形態がサビエ図書館等からのダウンロードといったデータ利用に移行していることが影響した。なお障害者サービス研修会での職員研修、県民に対する読書支援機器活用講座等を通じて、サビエ図書館や障害者サービスの普及を図っている。今後も作成した録音図書等のデータをサビエ図書館等に提供し幅広く利用に供するとともに、市町村立図書館等でのサービスの充実を図っていく。</p> <p>また、多言語・多文化サービスについても、日本語に難しさのある人々への情報提供として、やさしい日本語を推進するとともに、他館事例を研究し、取り入れていく。</p>
			<ul style="list-style-type: none"> 【障害者用コンテンツの充実】 ・点訳絵本、録音図書等の作成を進める。 【障害者サービスの普及】 ・県内図書館向け研修や県民向け講座等を充実する。 【新しいサービスの研究開発】 ・多言語社会や発達障害者への対応など新しいサービスの研究開発を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・点訳絵本、録音図書等の作成を進めた。 ・点訳絵本10タイトル(中央) ・録音図書40タイトル ・テキストデータ30件(西部) ・県内図書館向け研修や県民向け講座等の充実を図った。 ・障害者サービス研修会(西部) ・音訳者養成講座初級(西部)、音訳者養成講座中級 ・読書支援機器活用講座(中央・西部)、サビエ図書館活用講座(中央) ・障害者のための資料デジタル化講座(西部) ・公共図書館の多文化サービスや、「スローコミュニケーション」(知的障害者など日本語の理解に難しさがある人々へのわかりやすい情報提供)をテーマとした研修を実施した。 ・点訳絵本やさわる絵本、LLブックなどバリアフリー資料を手に取りやすい形で集めた「りんごの棚」の設置や、学校用貸出セット「国際理解」3セットの改訂を行った。 	録音図書の出貸タイトル数	14,000	13,532	12,739	11,449	×	<p>録音図書の貸出タイトル数は、3年間を通じて目標値を達成しなかった。達成率は8割であった。</p> <p>利用形態がサビエ図書館等からのダウンロードといったデータ利用に移行していることが影響した。なお障害者サービス研修会での職員研修、県民に対する読書支援機器活用講座等を通じて、サビエ図書館や障害者サービスの普及を図っている。今後も作成した録音図書等のデータをサビエ図書館等に提供し幅広く利用に供するとともに、市町村立図書館等でのサービスの充実を図っていく。</p> <p>また、多言語・多文化サービスについても、日本語に難しさのある人々への情報提供として、やさしい日本語を推進するとともに、他館事例を研究し、取り入れていく。</p>

(3) 千葉県立図書館行動計画(令和3~5年度)(案)について(協議)

役割・機能	重点項目	主な取組	スケジュール			評価指標	目標値	実績値	
			R3	R4	R5				
1	図書館ネットワークの発展	(1) 市町村立図書館等への支援の強化	【市町村立図書館等への貸出し、相談事業等の推進】 ・市町村立図書館等を通じた貸出しについて広報を進める。 ・毎年全市町村を訪問し、図書館の運営等についての調査相談を行うとともに、電話やメール等を通じた相談を随時行う。	▶	▶	▶	市町村立図書館等への貸出冊数	75,000	62,946
			【新館における物流体制の検討】 ・現状の課題等について市町村立図書館等に運営相談等を通じて聴取するとともに、全県でアンケートを実施し、新館整備に向けて検討を進める。	▷	▷	▶	市町村立図書館等の運営相談件数	120	108
			【県内最後の1冊保存体制の検討】 ・先行する図書館や団体等に個別調査を行う。 ・課題等について市町村立図書館等と情報交換を進め、県内の保存体制のモデル案を検討する。 ・市町村立図書館等が最後の1冊を確認できるような今後の電算システムに盛り込む機能を検討する。	▷	▷	▶			
2	図書館職員の資質向上	(1) 図書館職員研修センター機能の強化	【経験別、分野別研修の実施】 ・研修結果の分析をし、研修プログラムの充実を図る。	▶	▶	▶	研修受講者の満足度	94.5%	94.5%
			【研修機会の拡充】 ・開催方法を検討し、遠隔開催や地域別開催を実施する。	▶	▶	▶			
			【研修内容のアーカイブ化】 ・国内の事例等について調査し、課題等の洗い出しを行う。	▷	▷	▷			
3	(1) 地域の子どもの読書環境整備の推進	【児童資料の研究支援の推進】 ・児童文学研究や子どもの読書に関する活動に役立つ資料を揃え、子どもと児童文化に関する情報を蓄積するとともに、調査研究活動を支援するツールを提供する。	▶	▶	▶	地域の子どもの読書活動の推進に資する刊行物	2	0	
		【子育て支援情報サービスの推進】 ・子育てに資する図書等を収集するとともに、県関係機関と連携しながら子育て支援情報の発信を進める。	▶	▶	▶				
		【児童書の網羅的収集の検討】 ・市町村立図書館等が児童書を購入する際の参考となるような収集方法について、国内の先行事例等を参考に方法を検討する。	▷	▷	▷				
	(2) 学校図書館への支援の強化	【新しいサービスの研究開発】 ・図書館利用の困難な子どもや保護者について、実態把握に努め、利用支援方法を検討する。 ・ヤングアダルト(ティーンズ)サービスの全県でのサービス充実を目指す方策を検討する。 ・地域の子どもの読書活動の推進に資する刊行物を発行する。	▷	▷	▶				
		【県立学校等への貸出し、相談事業等の充実】 ・県立学校等の相互貸借について実態調査を進め、ニーズを把握するとともに、未登録校への広報活動を実施する。	▶	▶	▶	県立学校等への貸出冊数	31,000	18,841	
			【学校貸出セットの充実】 ・貸出セットについて、内容の検討及び整備を推進する。 ・要望の多い貸出セットを調査、把握し必要性の高いものの重複購入を進める。	▶	▶	▶	学校貸出セットの新規整備・改訂数	10	8
【生徒向け読み聞かせ講座、図書館活用講座等の実施】 ・生徒向け読み聞かせ講座、図書館活用講座等を実施する。	▶		▶	▶					
		【市町村立図書館等と小中学校との連携への支援】 ・市町村立図書館等と小中学校との連携状況を調査する。 ・小中学校支援モデル事業として貸出セットの作成を検討する。 ・図書館未設置市町村等が小中学校との連携を推進できるよう、資料の支援を行う。	▶	▶	▶				
		【特別支援学校への読書支援の充実】 ・学校訪問等でニーズと支援方法を探り、読書支援を継続、推進する。	▶	▶	▶				
		【探究学習支援への対応】 ・教科書単元・テーマ別資料リストについて、順次内容の追加・改訂を進めるとともに、市町村立図書館等を通じて周知を図る。 ・図書館を使った授業等についての情報発信を進める。 ・探究学習についての利用支援方法を検討する。	▶	▶	▶				

役割・機能	重点項目	主な取組	スケジュール			評価指標	目標値	実績値 R2
			R3	R4	R5			
4	(1) 課題解決支援、調査研究機能の強化	【課題解決支援サービスの充実】 ・法律情報支援サービス、医療情報支援サービス、シニア支援情報サービス等を推進する。 ・行政課題等の解決に資する資料を収集、提供する。	▶	▶	▶	パスファインダー及び「図書館から世界（ニュース）が見える」発行件数	15	15
		【レファレンス事例の一般公開】 ・国立国会図書館レファレンス協同データベースへのデータ提供を進める。	▶	▶	▶			
		【県民向け講座の実施】 ・図書館活用講座、データベース活用講座等を実施する。	▶	▶	▶			
		【時事問題等に関する情報提供サービスの実施】 ・時事問題や地域の課題等に関する資料の紹介、ブックリストやリンク集等の作成、提供を行う。	▶	▶	▶			
		【電子書籍の導入の検討】 ・電子書籍について費用も含めた導入の検討を進める。	▷	▷	▷			
		【新館整備に向けた資料管理の検討】 ・引き続き重複図書、雑誌の除籍を進める。 ・各館で別々に所蔵している雑誌の書誌統合を進める。 ・電子書籍の収集等、新館を見越した資料の収集、整理方法について検討を進める。	▷	▷	▷			
5	(1) 千葉県関係資料の計画的な収集整備、保存及び情報発信の推進	【千葉県関係資料の網羅的収集】 ・官公庁や関係部署へ情報収集をし、寄贈資料の収集に努める。また、インターネットでの提供に移行した資料についても、漏れのないように収集する。 ・インターネットや新聞記事等で出版情報を幅広く集め受入に繋げる。	▷	▷	▷	千葉県に関する情報発信件数	40	39
		【千葉県関係の情報検索ツールの充実】 ・国立国会図書館レファレンス協同データベースへのデータ提供や新聞雑誌記事索引、人名索引、デジタルアーカイブ、パスファインダー、テーマ別リスト、目次情報など、千葉県関係の情報に到達しやすい環境を整備する。	▶	▶	▶			
		【千葉県資料のデジタル化】 ・地図や郷土誌、県が編集発行した行政資料など計画的にデジタル化を進める。	▶	▶	▶			
		【インターネット上の地域行政資料の動向等調査】 ・ポーンデジタル資料の収集やオープンデータの活用など、国内の動向について調査を行う。	▷	▷	▷			
6	(1) 博物館など関係機関との連携の推進	【関係機関と連携した事業の実施】 ・博物館や文書館、さわやかちば県民プラザ等と連携して、展示、講座等を実施する。 ・関係機関が実施する講座等へ、職員を講師として派遣する。	▶	▶	▶	連携事業の実施回数	15	13
		【関係機関との連絡調整会議の実施】 ・博物館や文書館、さわやかちば県民プラザ等関係機関との情報共有を進める。	▶	▶	▶			
	(2) 図書館利用が困難な人々へのサービスの充実	【障害者用コンテンツの充実】 ・点訳絵本、録音図書、テキストデータ等の作成を進める。 ・サビエ図書館や国立国会図書館等と連携し、所蔵資料の書誌登録や作成データの提供を推進する。	▶	▶	▶	障害者サービス・多文化サービス関連のコンテンツの作成数	25	32
【障害者サービスの普及】 ・県内図書館向け研修や県民向け講座等を充実する。 ・遠隔対面朗読等インターネット等を活用したサービスや県内図書館等との連携を強化する。		▶	▶	▶				
【新しいサービスの研究開発】 ・多言語・多文化社会や発達障害者への対応など新しいサービスの研究開発を進める。		▷	▷	▷				
(3) 情報発信機能の強化	【積極的な広報・PRの推進】 ・ホームページやツイッターによる発信に努めるとともに、ブランディングについて研究を進める。	▷	▷	▶	ツイッターの発信件数	360	315	

※令和3～5年度の各年度とも目標値を目指す。

※スケジュール凡例

▷：検討段階

▶：実施段階

千葉県立図書館 ツイッターに関する資料 (令和3年7月9日14時現在)

https://twitter.com/chibaken_lib

千葉県立図書館 (@chibaken_lib) · Twitter



【西部図書館】今週の新书推荐です!! 写真に代替テキストが入っています。スマホの読み上げ機能を使えば、書名と著者名が確認できます。この中で気になるタイトル↓↓『APD<聴覚情報処理障害>がわかる本 聞きとる力の高め方』(小淵千絵監修 講談社 2021)

Twitter · 2 時間前



【中央】2年ぶりに#高校野球千葉大会(第103回)が開催されています! 『高校野球千葉大会100回記念誌』(千葉県高等学校野球連盟 100回記念誌編集委員会編集 千葉県高等学校野球連盟 2020)では、過去100回までの大会を振り返ることができます。#司書のおすすめ www.library.pref.chiba...

Twitter · 5 時間前

【中央】「図書館から世界が見える」20号は「探究学習」です。来年度からの高等学校学習指導要領に導入されるなど、注目されている学習方法のひとつです。これから探究学習の実施を考えている方や関心のある方に役立つ資料を掲載しています。

www.library.pref.chiba...



Twitter · 1 日前

【中央】「オープンデータ」という言葉をご存知ですか? 今、オープンデータの活用による社会課題の解決や新たなビジネスの創出などに注目が集まっています。「図書館から世界(ニュース)が見える」No.19「オープンデータ」では、基礎的な情報や活用事例などをご紹介します。
www.library.pref.chiba...

Twitter · 1 日前



【中央】7月7日は七夕です。『星と星座の伝説 夏』(瀬川昌男著 小峰書店 2009)にも、「たなぼた物語」として織姫と彦星の伝説が載っています。一般的な西洋の星座では、こと座のベガ、わし座のアルタイル、また、織姫が渡るかささぎの橋がはくちょう座に当たるそうです。

www.library.pref.chiba...

Twitter · 2 日前